

R2. 2. 7
西宮市保健医療計画 策定委員会
資料 2

西宮市保健医療計画進捗状況報告書

令和 2 年 2 月
西 宮 市

【資料の記載内容について】

西宮市保健医療計画に記載されております取組について、主なものを推進方針として抽出したうえで、実施状況及びこれを踏まえた今後の課題と方向性について、計画の基本理念「すべての市民が、住み慣れた地域で、安心して暮らせるまち・西宮」を実現するための3つ基本目標別に体系化された施策ごとにシートを作成し記載しています。

報告書目次

基本目標1 救急・災害時医療が充実したまち

施策①	救急医療の充実（計画 32 頁～40 頁記載）	2
施策②	災害時医療体制の強化（計画 41 頁～45 頁記載）	11
施策③	健康危機管理の強化（計画 46 頁～48 頁記載）	15

基本目標2 住み慣れた地域で適切な医療が受けられるまち

施策①	在宅医療・介護連携体制の構築	
- (1)	在宅医療体制の強化（計画 51 頁～57 頁記載）	17
- (2)	在宅医療・介護連携の推進（計画 58 頁～62 頁記載）	27
- (3)	認知症対策（計画 63 頁～65 頁記載）	31
施策②	医療連携の推進（計画 66 頁～70 頁記載）	35
施策③	北部地域の医療課題の解決（計画 71 頁～72 頁記載）	39

基本目標3 健康でいきいきできるまち

施策①	疾病予防対策の充実（計画 74 頁～78 頁記載）	41
施策②	保健・医療に関する情報の発信と普及啓発の強化（計画 79 頁～81 頁記載）	45

市立中央病院の役割

施策①	市立中央病院の役割（計画 84 頁～88 頁記載）	49
-----	---------------------------	----

（報告書見本）

施策① 救急医療の充実

〈推進方針〉

西宮市保健医療計画に記載されている「今後の取組」から主なものを推進方針として抜粋、要約し記載しています。

〈施策実施状況（計画策定時からの比較）〉

取組に対する市関係部署を中心とした所管での施策の実施状況、実績について記載しています
計画策定時より実施しており継続しているものは**継続実施中**
計画策定後に新たに実施したものは**新規実施**
計画策定時より実施しており計画策定後に事業を拡大したものについては**拡大実施**と標記しています。

〈実施における主な課題〉

実施において生じた課題について記載しています。

〈現状〉

施策実施に関連したデータ、アンケート等の現状を示す情報を記載しています。

〈今後の方向性〉

今後の方向性について記載しています。

基本目標1 救急・災害時医療が充実したまち

施策① 救急医療の充実

(計画 32~40 頁記載)

〈推進方針〉

【救急医療体制】(40 頁)

- ・休日・夜間の1次救急医療体制の円滑な運営と維持

【適正受診】(40 頁)

- ・「健康医療相談ハローにしのみや」等の電話相談の周知、利用促進
- ・救急医療体制に対する理解、適正利用の促進を目的とした普及啓発の推進

【救急搬送】(40 頁)

- ・「h-Anshin むこねっと」の2次救急システム等の活用による救急受入照会回数の減少・搬送の円滑化
- ・緊急時の備えとしての既往歴やかかりつけ医療機関等の情報の管理・保管

【病院前救護】(40 頁)

- ・応急手当の必要性、知識・技術について広報、普及啓発

〈施策実施状況(計画策定時からの比較)〉

【救急医療体制】

- ・**実施継続中** 従来からの休日・夜間の救急体制に加え、平成27年度より**阪神北広域こども急病センター**との連携を開始し、1次救急医療体制を拡充しています。

<1次救急医療体制の利用実績>

	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (9月末現在)
西宮市応急診療所(内科・小児科)	17,700人	17,481人	6,224人
在宅当番医制(外科・産婦人科・内科・小児科)	7,090人	6,402人	4,660人
特殊救急医療(耳鼻咽喉科・眼科)	1,434人	1,366人	640人
休日歯科診療	428人	467人	260人
阪神北広域こども急病センター	594人	609人	274人

- ・**実施継続中** 1次救急医療情報について、さくらFM、市のホームページ、市政ニュース等で広報を行っているほか、周知用のチラシの配布、子育てアプリ「みやハグ」への情報掲載を行い認知度の向上に努めております。
- ・**実施継続中** 27年度よりサービスを開始した「健康医療相談ハローにしのみや」について、さくらFM、市のホームページ、市政ニュース等で広報を行っているほか、周知用のチラシの配布、子育てアプリ「みやハグ」への情報掲載を行い認知度の向上に努めています。

<「健康医療相談ハローにしのみや」の利用実績>

	平成28年度 (平成28年4月～ 平成29年3月)	平成29年度 (平成29年4月～ 平成30年3月)	平成30年度 (平成30年4月～ 平成31年3月)	令和元年度 (平成31年4月～ 令和元年9月)
入電件数	18,761件	19,056件	21,233件	9,671件
1日あたり平均	51.4件	52.2件	58.2件	52.8件

【救急搬送】

- ・**実施継続中** 「h-Anshin むこねっと」の2次救急システム等を活用し、救急受入照会回数の減少に努めています。
- ・**実施継続中** 既往歴やかかりつけ医療機関等の情報を記載して保管する「あんしんキット」普及を支援しています。

【病院前救護】

- ・**実施継続中** ホームページ、各種イベントにおける広報を行っているほか、消防局・各消防署において救急講習会を実施しています。

〈実施における主な課題〉

【救急医療体制】

- ・安定的な救急医療体制の維持

【適正受診】

- ・長期的な広報活動の継続
- ・ハローにしのみやの相談件数増加に伴う相談員の増員

【救急搬送】

- ・高齢化等を背景とした救急需要の増大に対する、限りある搬送資源の有効活用のあり方
- ・「あんしんキット」等の救急時の情報管理ツールの内容更新や新規普及のための仕組みの確立

【病院前救護】

- ・適切な応急手当の重要性について、更なる普及啓発が必要であること

〈現状〉

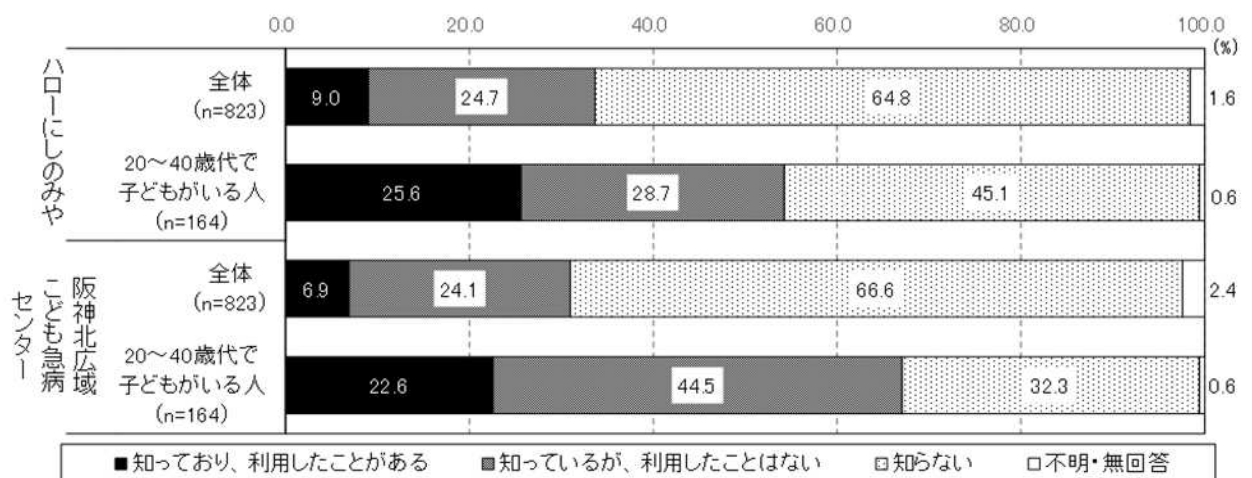
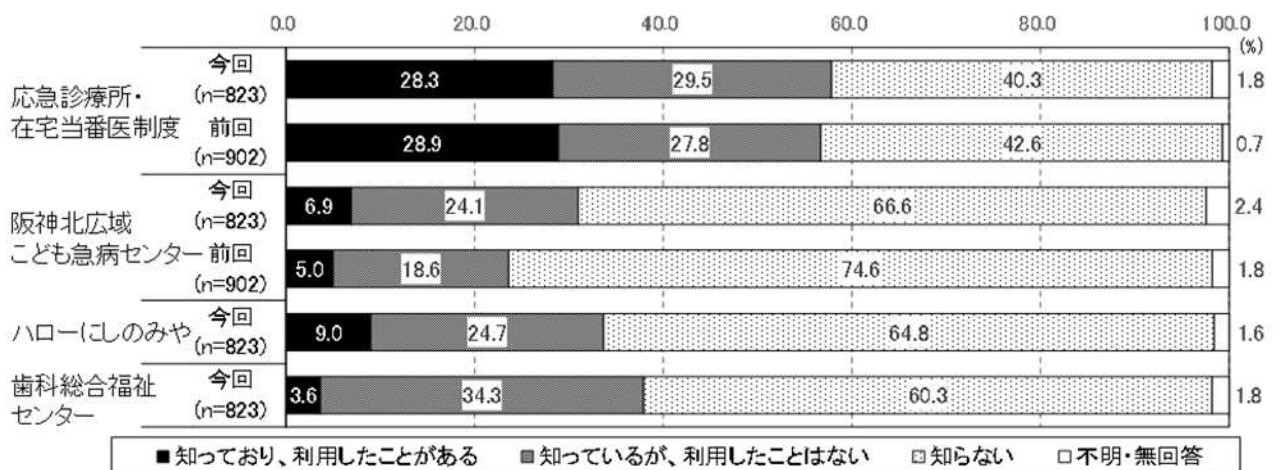
【救急医療体制】

- 市民向けアンケート調査結果によると、西宮市応急診療所・在宅当番医制度の認知度は57.8%と、前回調査(56.7%)と大きな差はありません。また、阪神北広域こども急病センターの認知度は31.0%と、前回調査(23.6%)から7ポイント程度増加しています。

さらに、健康医療相談ハローにしのみやの認知度は33.7%、西宮歯科総合福祉センターの認知度は37.9%となっています。

子育て世代に需要が見込まれる健康医療相談ハローにしのみや及び阪神北広域こども急病センターの認知度は、20代～40代の子育て世帯における認知度は、それぞれ54.3%、67.1%と全体を大きく上回っています。

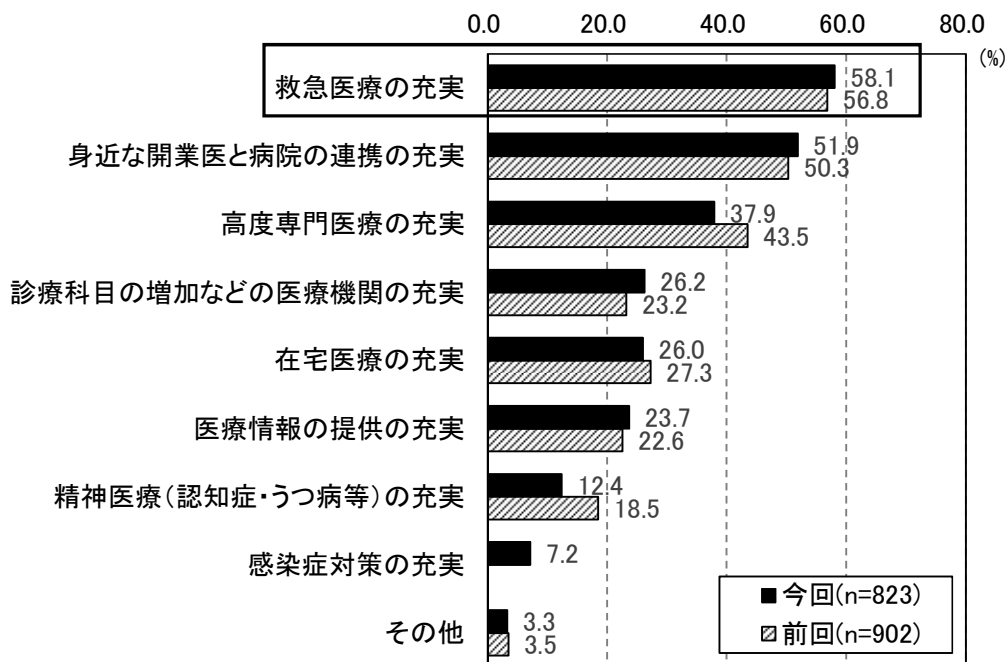
〈西宮市の1次救急医療体制の認知状況〉



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

- 市民向けアンケート調査結果によると、今後、特に充実して欲しい医療提供体制として、「救急医療の充実」が58.1%となっており、前回同様に最も多くなっています。

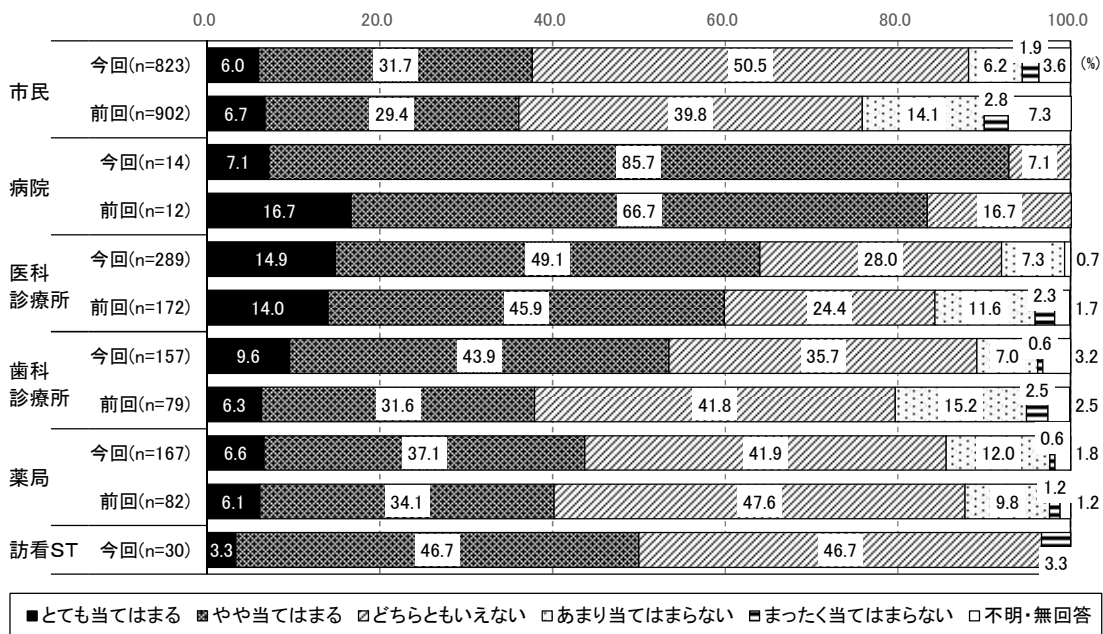
＜今後、特に充実して欲しい医療提供体制（複数回答可）＞



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

- 市民向けアンケートと医療機関向けアンケートの調査結果によると、本市の救急医療に対する評価は、依然として、医療を提供する側の病院と医科診療所では充実しているとの回答割合が高くなっていますが、医療を受ける側の市民は、病院・医科診療所と比べて低くなっており、救急医療に対する意識の差がみられます。
- 市民では救急医療が充実しているとの回答が37.7%と、前回調査（36.1%）と大きな差はありませんが、充実していないとの回答は8.1%と、前回調査（16.9%）の半分程度となっています。また、歯科診療所では充実しているとの回答は53.5%と前回調査（37.9%）から15ポイント程度増加しています。

＜西宮市は救急医療が充実しているかについて（市民、医療機関）＞



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

- 医療機関向けアンケート調査結果によると、西宮市における休日夜間の救急医療体制について不安を感じる点としては、依然として「高齢化の進展に伴う救急搬送の増加」「安易な時間外診療による医療機関への過度の負担」が上位に挙がっています。また、医科診療所では「西宮市応急診療所等の初期救急医療体制の維持」が最も多くなっています。

一方、「不安を感じることはない」については、ほとんどの機関で2割前後を占めており、前回調査より増加傾向にあります。

＜西宮市は救急医療が充実しているかについて（市民、医療機関・前回比較）＞

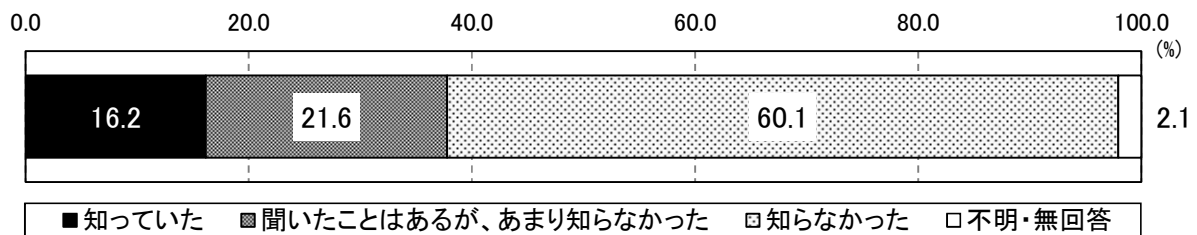
		西宮市応急診療所の維持の初	二次救急輸送病院体制の維持	低次救急医療提供能力の本	軽症患者の二次・三次の本	急症医療受診による救急	高齢化の進展に伴う救急	安易な時間外診療の負担	患者情報の不足	不安を感じることはない	その他	不明・無回答
病院	今回(n=14)	0.0	35.7	21.4	35.7	28.6	28.6	21.4	7.1	0.0		
	前回(n=12)	25.0	33.3	50.0	66.7	50.0	—	8.3	0.0	0.0		
医科診療所	今回(n=289)	33.2	32.2	21.1	27.3	27.7	3.8	22.1	2.1	3.5		
	前回(n=172)	32.6	36.0	23.8	29.1	38.4	—	13.4	2.3	4.7		
薬局	今回(n=167)	29.9	14.4	24.0	37.7	37.7	9.6	17.4	4.8	2.4		
	前回(n=82)	30.5	17.1	29.3	37.8	45.1	—	13.4	6.1	1.2		
訪看ST	今回(n=30)	30.0	23.3	20.0	43.3	33.3	10.0	26.7	3.3	6.7		

資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

【適正受診】

- 市民向けアンケート調査結果によると、救急医療体制の機能分類（1次救急、2次救急、3次救急）を認知度は16.2%となっています。

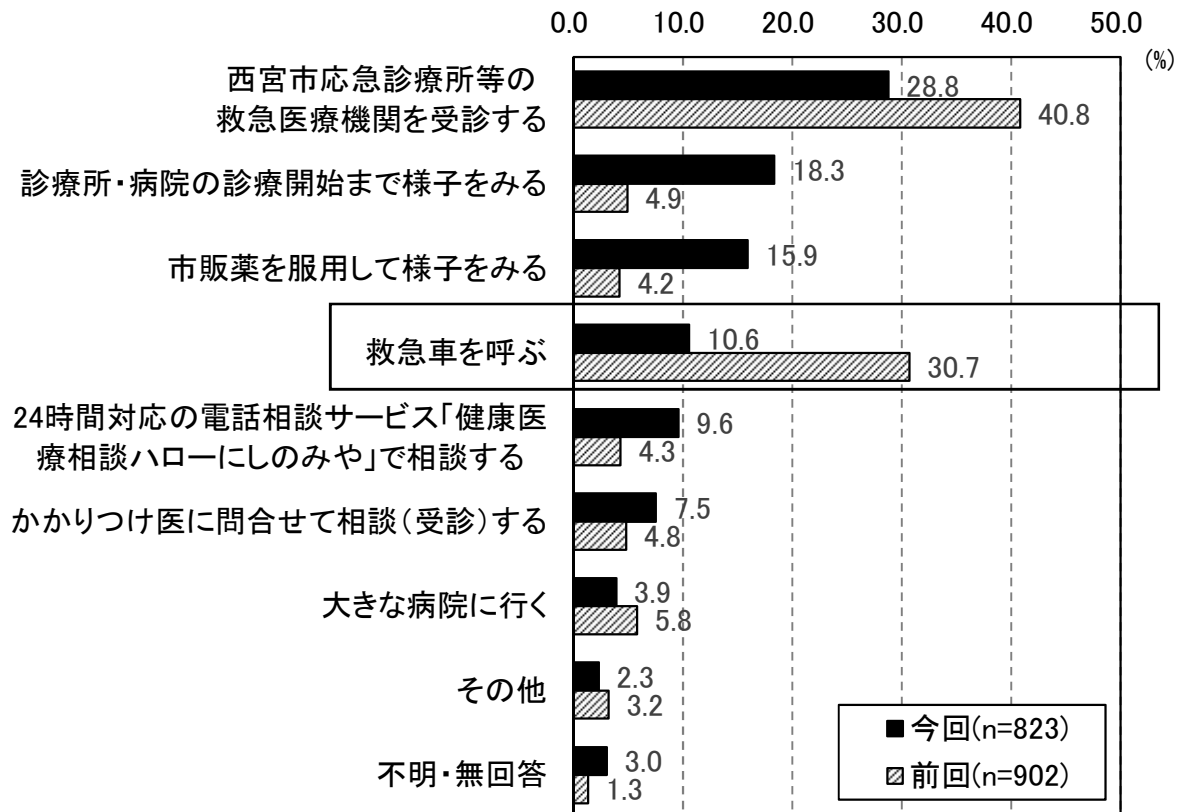
＜救急医療体制の機能分類の認知状況＞



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

- 市民向けアンケート調査結果によると、休日夜間の急病等(軽度)の対応については、「西宮市応急診療所等の救急医療機関を受診する」が28.8%で最も多く、「診療所・病院の診療開始まで様子を見る」(18.3%)が続きます。
また、「西宮市応急診療所等の救急医療機関を受診する」については、前回調査(40.8%)から10ポイント程度、「救急車を呼ぶ」(10.6%)は前回調査(30.7%)から20ポイント程度と大きく減少しています。

＜休日夜間の急病等(軽度)の対応(複数回答可)＞



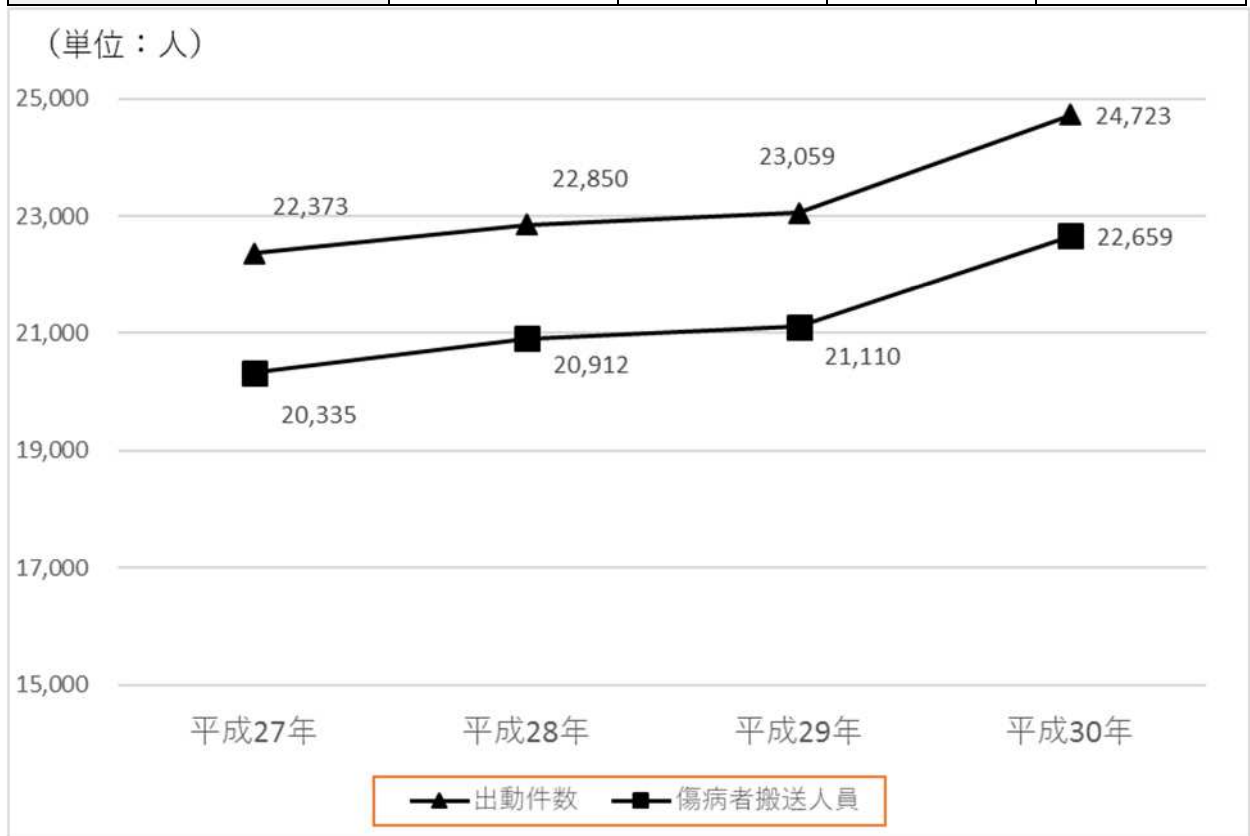
資料：西宮市 保健医療に関する意識調査(平成27年、令和元年実施)

【救急搬送】

●救急出動件数・搬送人員は年々増加傾向にあります。年齢区別にみると高齢者（65歳以上）が占める割合が増加し、高齢化の進展に伴い救急出動件数・搬送人員が増加していることが窺えます。

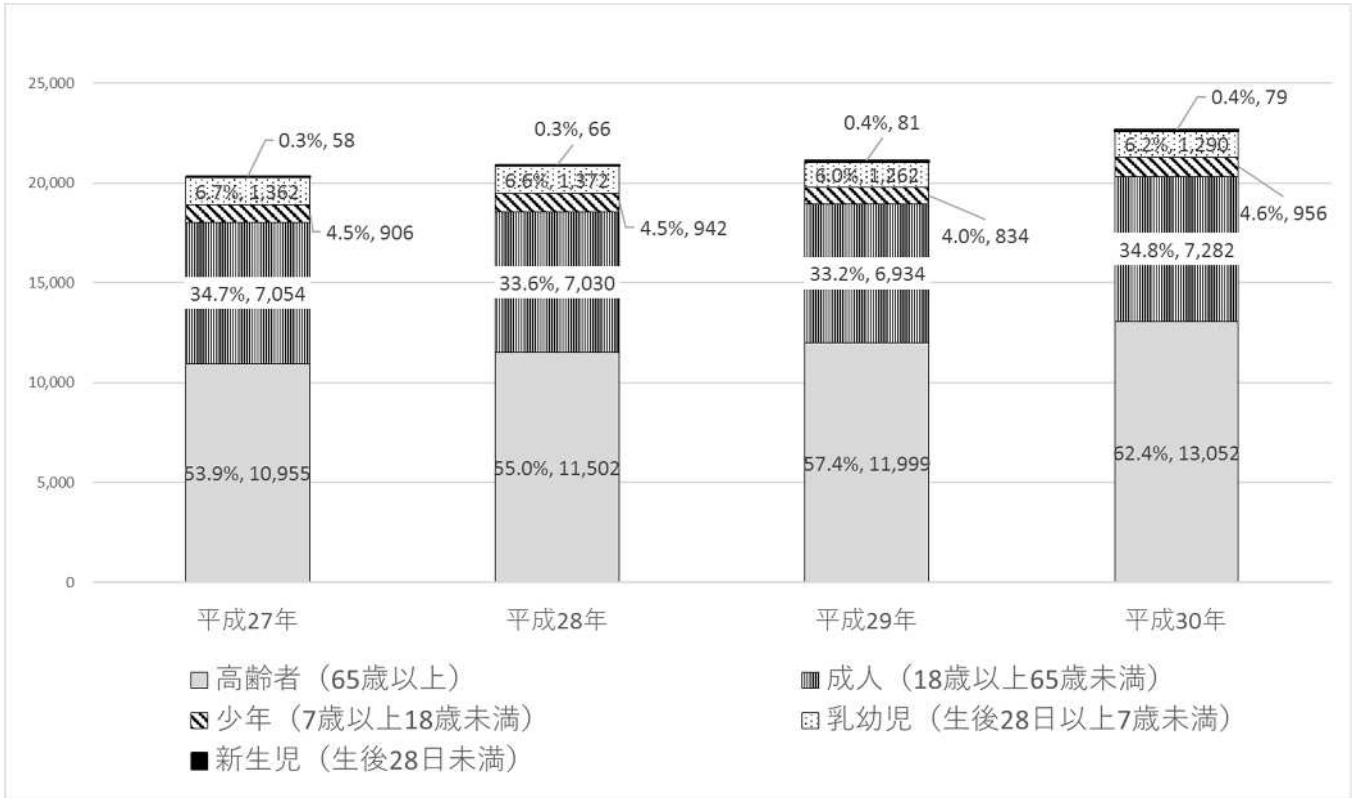
＜救急出動件数・搬送人員の推移＞

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
出動件数	22,373件	22,850件	23,059件	24,723件
傷病者搬送人員	20,335人	20,912人	21,110人	22,659人
1日平均出動件数	61.3件	62.4件	63.2件	67.7件
時間に対する出動件数	23分に1件	23分に1件	23分に1件	21分に1件
人口に対する出動件数	22人に1件	21人に1件	21人に1件	20人に1件
人口に対する搬送人員	23人に1件	23人に1件	23人に1件	22人に1件
人口1万人あたりの出動件数	459件	468	472	506



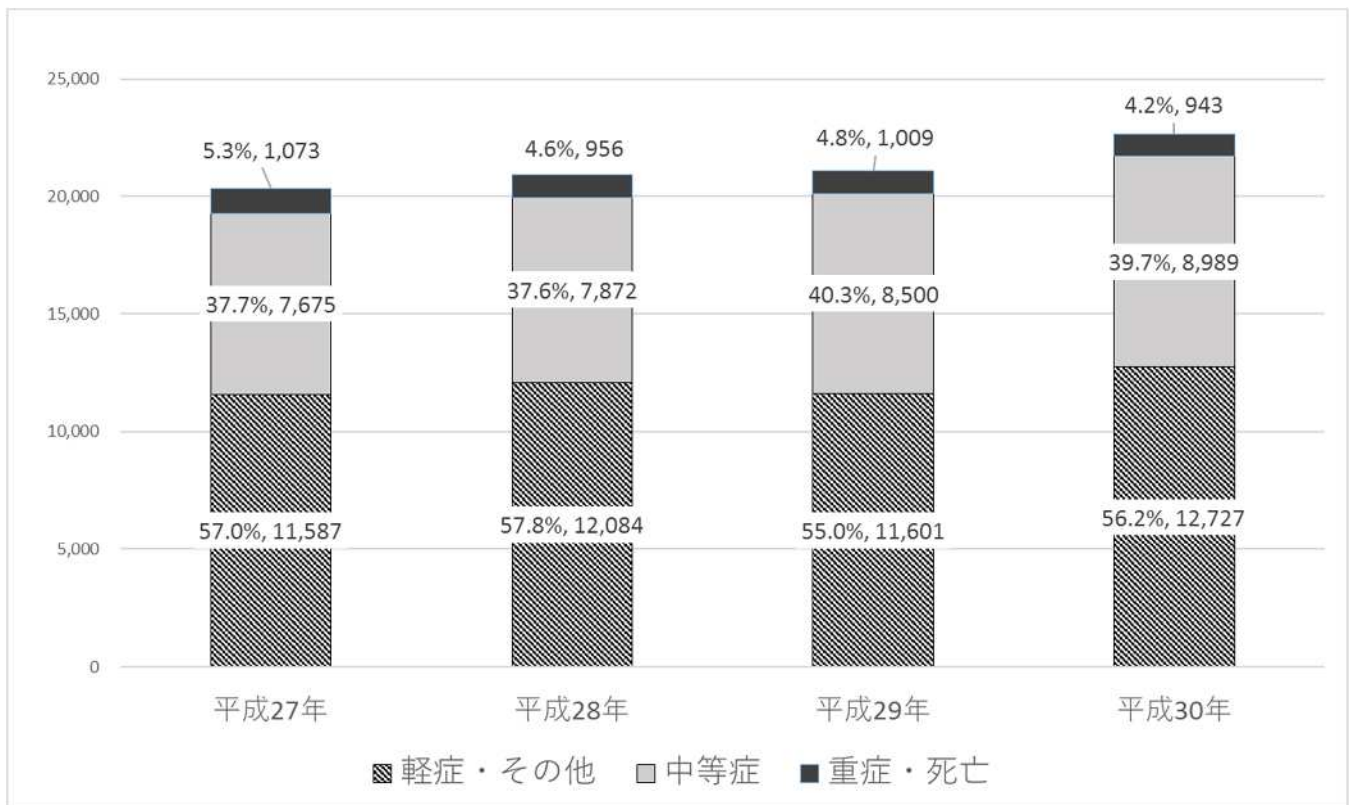
資料：西宮市 消防年報

＜年齢区分別搬送者の推移＞



資料：西宮市 消防年報

＜傷病程度別搬送人員の推移＞



資料：西宮市 消防年報

- 救急搬送における医療機関問合せ回数は、「h-Anshin むこねっと」の導入後減少傾向にあります。

＜救急搬送における医療機関問合せ回数＞

	平成 25 年		平成 26 年		平成 27 年		平成 28 年		平成 29 年	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
全搬送数	19,777	—	20,083	—	20,335	—	20,911	—	21,110	—
1～3回 (再掲)	18,319	92.6%	18,859	93.9%	19,384	95.3%	20,415	97.6%	20,695	98.0%
4回以上 (再掲)	1,458	7.4%	1,224	6.1%	951	4.7%	496	2.4%	415	2.0%
	平成 30 年		平成 31 年 (令和元年) ※9月末現在							
	件数	割合	件数	割合						
全搬送数	22,659	—	17,141	—						
1～3回 (再掲)	22,118	97.6%	16,749	97.7%						
4回以上 (再掲)	541	2.4%	392	2.3%						

資料：西宮市消防局提供データを基に保健総務課作成

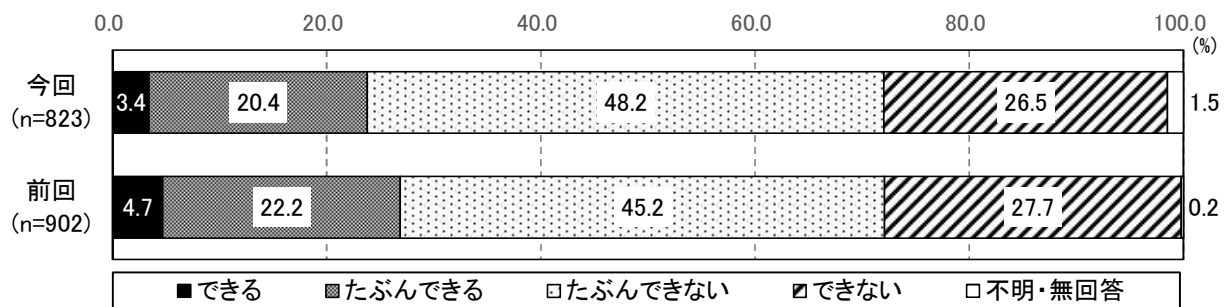
＜あんしんキット 活用実績（消防救急隊からの活用事案報告）＞

平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年 (令和元年) 度 (9月末現在)
10 件	4 件	8 件

【病院前救護】

- 市民向けアンケート調査結果によると、人が倒れている場に居合わせた場合でも、応急手当ができないとの回答が74.7%となっており、前回調査（72.9%）と大きな差はありません。

＜応急手当を行うことができるか＞



資料：保健医療に関する意識調査（平成 27 年、令和元年実施）

〈今後の方向性〉

【救急医療体制】

- ・**維持・継続** 今後も関係機関と連携し、**救急体制の安定的な運営**に努めます。

【適正受診】

- ・**維持・継続** 長期的な活動が求められることから今後も継続的に周知・広報を行います。

【救急搬送】

- ・**維持・継続** 今後も「h-Anshin むこねっと」等の救急医療情報システムを有効に活用し、限りある搬送資源の**有効活用**に努めます。
- ・**拡充** 「あんしんキット」の全市普及を目指すほか、消防とのより連携した取組を進めます

【病院前救護】

- ・**維持・継続** 今後も継続して、市民に対し、応急手当の必要性について広報するとともに、**応急手当に必要な知識・技術の普及啓発**に努めます。

基本目標1 救急・災害時医療が充実したまち

施策② 災害時医療体制の強化

(計画 41 頁～45 頁記載)

〈推進方針〉

【応急医療体制の整備】(45 頁)

- ・災害時に備えた医療救護体制の整備、救護所等の開設場所の指定
- ・西宮市災害医療救護連絡協議会の設置、災害発生時に関係機関で設置する医療救護活動本部の円滑な運営の確保
- ・災害時の医薬品不足に対応する医薬品の迅速・確実な確保方法の確立
- ・災害発生時の市内医療機関のライフラインの確保について関係機関との協議の推進
- ・兵庫県広域災害救急医療情報システム等を活用した傷病者の受け入れ状況の把握、迅速な救急搬送

【情報収集・情報発信】(45 頁)

- ・西宮市医師会等との連携による市内医療機関の被災状況の迅速な把握、情報共有の手段の強化、関係機関への医療情報の提供

【要援護者に対する支援】(45 頁)

- ・平時からの災害要援護者の把握、災害発生時の慢性腎不全患者や人工呼吸器装着患者等の受け入れ体制、必需医薬品の確保

〈施策実施状況(計画策定時からの比較)〉

【応急医療体制の整備】

- ・**新規実施**平成 28 年 8 月 1 日に、医療機関・医療関係団体と連携し、災害医療及び公衆衛生対策を実施するため「初動医療体制の整備」及び「医療救護活動本部の設置」について協議を行う場として、医師会、歯科医師会、薬剤師会、災害拠点病院、市関係部局から構成される西宮市災害医療救護連絡協議会を設置しました。
- ・**新規実施**西宮市災害医療救護連絡協議会での協議を得て、平成 30 年 3 月に「西宮市災害医療救護医療救護マニュアル」を策定し、策定後はマニュアルの具体化に向けて協議を進めています。
- ・**新規実施**平成 30 年 1 月に医師会、歯科医師会、薬剤師会と「災害時における医療救護活動に関する協定」を締結しました。
- ・**新規実施**「災害時における医療救護活動に関する協定」に基づき、災害用医薬品の備蓄について西宮市薬剤師会と協議を行い、平成 30 年度に市災害用備蓄医薬品等を購入いたしました。
- ・**実施継続中**災害発生時には、兵庫県広域災害医療情報システム等を搬送先の決定に活用しています。

【情報収集・情報発信】

- ・**新規実施**市内医療施設の被災状況及び稼働状況の迅速な把握に努め、平成 29 年より医療連盟と医療機関安否確認システムを稼働し、さらに平成 30 年度には、システムの運用方法や入力項目の見直しや操作訓練を実施しています。
- ・**実施継続中**保健所・保健福祉センター・西宮市立中央病院・医師会・歯科医師会・薬剤師会に I P 無線機を配備、操作訓練を実施しています。

【要援護者に対する支援】

- ・**実施継続中**西宮市上下水道局と協議し、連携して人工透析医療機関への給水訓練を実施しています。
- ・**新規実施**在宅人工呼吸器使用者を対象とした災害対応マニュアルを作成したほか、人工呼吸器を 24 時間離脱できない難病患者を対象とした訪問・状況確認を実施しました。
- ・**新規検討中**西宮市災害医療救護連絡協議会において、病院との災害時等における要援護者の受け入れ協定について検討を進めています。

〈実施における主な課題〉

【応急医療体制の整備】

- ・ライフラインの優先供給について市の関係部局の他に様々な外部機関との調整が必要であること

【情報収集・情報発信】

- ・医療機関安否確認システムへの今後の登録促進

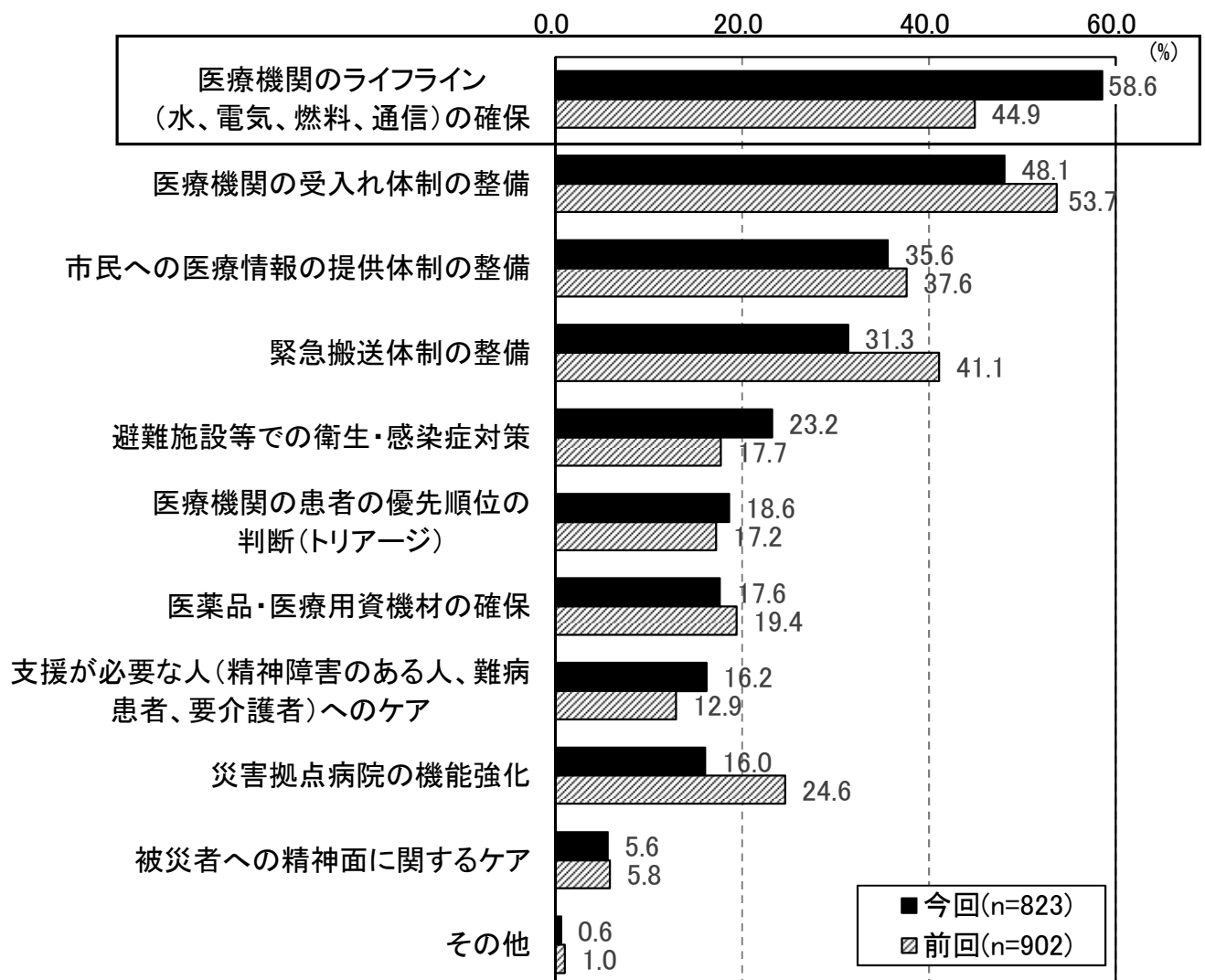
【要援護者に対する支援】

- ・市の関係部局の他に様々な外部機関との調整が必要であること

〈現状〉

- 市民向けアンケート調査結果によると、災害時の医療として、特に重要と考えることとして、「医療機関のライフライン（水、電気、燃料、通信）の確保」が 58.6%で最も多く、「医療機関の受入れ体制の整備」（48.1%）、「市民への医療情報の提供体制の整備」（35.6%）が続いています。なお、「医療機関のライフライン（水、電気、燃料、通信）の確保」については、前回調査（44.9%）から 10 ポイント以上増加しています。

〈災害時の医療として、特に重要と考えること（複数回答可）〉



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成 27 年、令和元年実施）

- 医療機関向けアンケート調査結果によると、災害に備えた医療対策として優先すべきこととしては、医科診療所と歯科診療所では「災害拠点病院の機能強化」、病院は「病院間の連携強化」、訪問看護ステーションは「災害時要援護者の把握」が5～7割程度で最も多くなっています。

＜災害に備えた医療対策として優先すべきこと（複数回答可）（％）＞

		災害拠点病院の機能強化	病院間の連携強化	医療機関の受入れ体制の整備	市民への医療情報の提供	緊急搬送体制の整備	医薬品の確保・医療用資機材の確保	災害時要援護者の把握	継続的な定期的な住民の訓練の含め	市民を対象とした心身等への対応	その他	不明・無回答
病院	今回(n=14)	64.3	71.4	42.9	21.4	35.7	21.4	7.1	21.4	0.0	14.3	0.0
	前回(n=12)	33.3	58.3	58.3	8.3	41.7	41.7	8.3	33.3	8.3	0.0	0.0
医科診療所	今回(n=289)	63.7	28.0	46.4	20.8	39.1	32.5	15.2	9.0	7.6	2.4	2.1
	前回(n=172)	64.5	22.7	39.0	19.8	42.4	33.7	11.0	10.5	12.8	0.6	2.9
歯科診療所	今回(n=157)	56.1	22.9	36.9	25.5	38.2	22.9	20.4	9.6	10.8	0.6	2.5
	前回(n=79)	59.5	29.1	41.8	24.1	39.2	26.6	19.0	5.1	12.7	3.8	2.5
訪看ST	今回(n=30)	20.0	33.3	46.7	36.7	36.7	16.7	50.0	23.3	10.0	3.3	3.3

資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

- 医療機関向けアンケート調査結果によると、災害発生時の医療として優先すべきこととしては、すべての機関で「医療機関のライフライン（水、電気、燃料、通信）の確保」が6～7割台で最も多く、「医療機関の被災状況及び傷病者の受入可能状況の把握」などが続いています。

＜災害発生時の医療として優先すべきこと（複数回答可）（％）＞

		医療機関の被災状況の把握	ライフライン（水、電気、燃料、通信）の確保	医療機関の被災状況の把握	医薬品の搬送・医療用資機材の確保	市民への医療情報の提供	優先順位判断（ト）の優	被災患者への精神的ケア	災害時要援護者へのケア	避難施設等の確保	避難施設等における感染症対策	その他	不明・無回答
病院	今回(n=14)	71.4	78.6	50.0	14.3	21.4	14.3	0.0	14.3	7.1	0.0	0.0	
	前回(n=12)	75.0	83.3	50.0	8.3	50.0	0.0	0.0	16.7	8.3	0.0	0.0	
医科診療所	今回(n=289)	70.6	79.2	38.8	23.5	26.6	4.2	2.8	12.1	7.3	0.7	3.1	
	前回(n=172)	61.6	76.2	42.4	16.9	40.1	2.3	1.2	18.0	8.1	0.6	2.9	
歯科診療所	今回(n=157)	65.0	75.2	29.3	18.5	31.8	4.5	7.0	5.7	17.2	0.6	3.8	
	前回(n=79)	51.9	82.3	40.5	24.1	24.1	6.3	6.3	11.4	17.7	0.0	1.3	
訪看ST	今回(n=30)	56.7	66.7	10.0	26.7	30.0	16.7	30.0	30.0	23.3	0.0	3.3	

資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

〈今後の方向性〉

【応急医療体制の整備】

- ・**維持・継続**引き続き「西宮市災害医療救護活動マニュアル」の内容をより具体的なものにするため、西宮市災害医療救護連絡協議会の中で協議を進めていくほか、**ライフライン**等の確保について**医療機関と連携・協議**を進める等、医療救護活動体制の整備を進めていきます。

【情報収集・情報発信】

- ・**維持・継続**医療機関安否確認システム及びIP無線機の操作訓練を継続して実施していきます。

【要援護者に対する支援】

- ・**拡充**引き続き災害時の要援護者の医療の確保体制について、**関係機関等と協議**を進めるほか、平時から災害要援護者の把握に努めるとともに、その対応について検討していきます。

基本目標1 救急・災害時医療が充実したまち

施策③ 健康危機管理の強化

(計画 46 頁～48 頁記載)

〈推進方針〉

【結核予防対策】【感染症予防対策】(48 頁)

- ・感染症とその予防に関する啓発活動の推進
- ・HIV、結核等の**早期発見と早期治療**に繋げる検査相談事業及び啓発活動の実施
- ・**予防接種事業**を充実、予防接種法及び関係法令に基づく定期の予防接種の対象者への周知による接種の促進
- ・感染症発生時における**まん延防止のための疫学調査**、健康診断及び消毒等の実施

〈施策実施状況(計画策定時からの比較)〉

【結核予防対策】【感染症予防対策】

- ・**実施継続中**インフルエンザ、デング熱、HIV、結核等の感染症について、さくら FM、市政ニュースへの掲載、パンフレット、リーフレット、ポスターの配布等、広報・啓発活動を実施しています。
- ・**実施継続中**定期の予防接種については、市内での接種に加えて、**市外で接種する場合の制度整備**を行うことと**接種機会の確保**に努め、**対象者への周知**、**予防接種台帳の管理**に取り組んでいます。
- ・**実施継続中**感染症発生時には、感染症法に基づき**疫学調査**を実施しています。

〈疫学調査の実施状況〉

		平成 30 年度	令和元年度 (※9 月末現在)
三 類	腸管出血性大腸菌感染症	7 件	2 件
	細菌性赤痢	2 件	0 件
四 類	デング熱	0 件	1 件
	レジオネラ	11 件	5 件
	日本紅班熱	4 件	0 件
	A 型肝炎	1 件	3 件
五 類	侵襲性髄膜炎菌感染症	1 件	0 件
	風しん(疑いも含む)	18 件	10 件
	麻疹(疑いも含む)	9 件	8 件

〈実施における主な課題〉

【結核予防対策】【感染症予防対策】

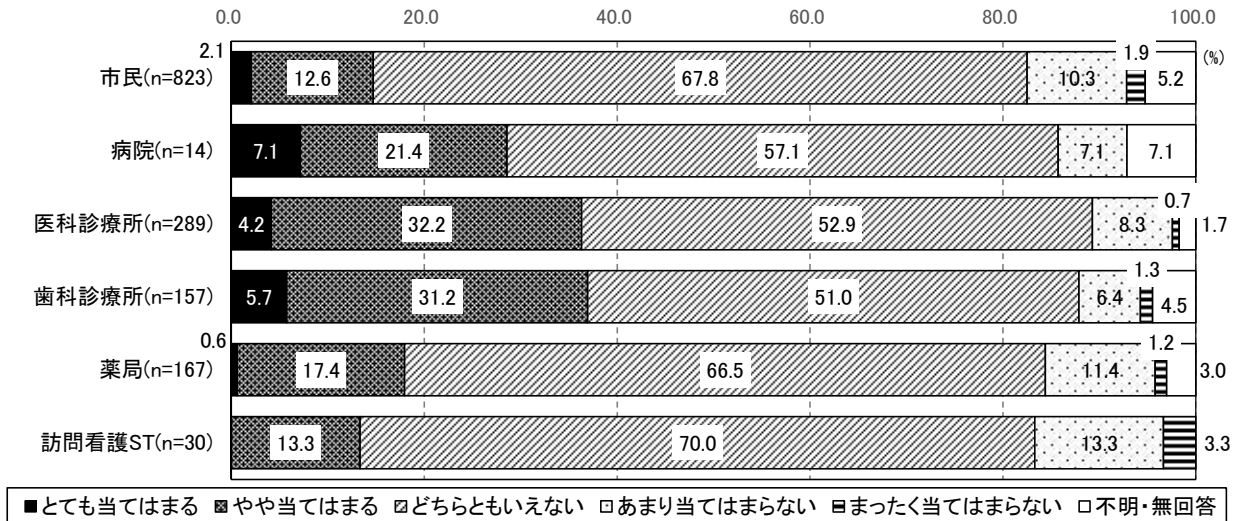
- ・増加する**高齢者に対する結核予防**の効果的な啓発活動
- ・今後の定期の**予防接種対象疾病の増加**への対応
- ・感染症発生時の**医療機関との連携**

〈現状〉

【結核予防対策】【感染症予防対策】

- 市民向けアンケートと医療機関向けアンケートの調査結果によると、本市の感染症予防対策に対する評価は、医療を提供する側の病院や医科診療所、歯科診療所では充実しているとの回答割合が3～4割程度を占めていますが、医療を受ける側の市民は14.7%と、病院や医科診療所、歯科診療所と比べて低くなっており、感染症予防対策に対する意識の差がみられます。

〈西宮市は感染症予防対策が充実しているかについて（市民、医療機関）〉



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（令和元年実施）

〈今後の方向性〉

【結核予防対策】【感染症予防対策】

- ・維持・継続感染症についての啓発活動については、感染症の発生状況を注視し、今後も状況に応じた効果的な啓発に努めます
- ・維持・継続定期の予防接種については、効率的で効果的な手法の研究を継続して行い、今後の対象疾病の増加に対応しながら、**予防接種率維持向上**に努め、事業を推進していきます。
- ・維持・継続今後も感染症法に基づき医療機関関係者と連携しながら、**疫学調査**や健康診断を実施します。

基本目標 2 住み慣れた地域で適切な医療が受けられるまち

施策① 在宅医療・介護連携体制の構築 - (1) 在宅医療体制の強化 (計画 51 頁～57 頁記載)

〈推進方針〉

【在宅医療の推進】(56 頁)

- ・在宅療養相談支援センターを通じた診療所医師をはじめとした地域の専門職の連携支援
- ・在宅医療を推進するうえで不可欠となるかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師(薬局)の普及に向けた周知、啓発

【退院支援からの日常の療養支援】(56 頁)

- ・病院から在宅医療・介護への円滑な移行を図るための退院支援に向けた取組の推進
- ・在宅療養相談支援センターと高齢者あんしん窓口等の連携の推進

【看取り】(57 頁)

- ・在宅での看取りに対する理解を深めるための市民向けの「フォーラム」の開催
- ・市民向けの在宅療養ガイドブック「望む暮らしをわがまちで」の作成・配布

〈施策実施状況(計画策定時からの比較)〉

【在宅医療の推進】

- ・**拡大実施**在宅療養相談支援センターにおいては、平成 27 年度に甲東・甲陽園及び瓦木圏域、平成 28 年度に鳴尾及び北部圏域、平成 29 年度に中央圏域にそれぞれ設置し、現在市内 5 圏域すべてで、専門職からの在宅療養に関する相談を受け付け、支援を行っています。

〈参考 在宅療養相談支援センターの設置及び相談受付状況〉

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 (令和元) 年度
設置状況	甲東・甲陽園圏域 瓦木圏域 鳴尾圏域 (平成 28 年 10 月 1 日～) 北部圏域 (平成 28 年 10 月 1 日～)	甲東・甲陽園圏域 瓦木圏域 鳴尾圏域 北部圏域 中央圏域 (平成 29 年 11 月 1 日～)	甲東・甲陽園圏域 瓦木圏域 鳴尾圏域 北部圏域 中央圏域	甲東・甲陽園圏域 瓦木圏域 鳴尾圏域 北部圏域 中央圏域
相談件数	95 件	176 件	326 件	152 件 ※令和元年 9 月末迄

- ・**実施継続中**かかりつけ医及びかかりつけ薬剤師(薬局)の役割について、市ホームページや市政ニュース等により普及啓発を実施しています。かかりつけ薬剤師の役割について、啓発資材(「かかりつけ薬剤師・薬局を持ちましょう」と記載した袋)を作成しています。

【退院支援からの日常の療養支援】

- ・**新規実施**在宅療養相談支援センターが中心となり、兵庫県保健所とも連携し、退院時の病院と在宅介護の標準的な引継ルールの策定に向けた取組を行い、平成 29 年 12 月に策定しました。現在も定期的に点検を目的とした協議を実施し運用しています。
- ・**実施継続中**在宅療養相談支援センターとして、高齢者あんしん窓口からの相談に応じているほか、圏域内の課題について協働で取り組んでいます。

〈参考 高齢者あんしん窓口から在宅療養相談支援センターへの相談件数〉

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 (令和元) 年度
23 件	44 件	64 件	27 件

【看取り】

- ・**実施継続中**市民向けの看取りに関するフォーラムを訪問看護ステーションネットワーク西宮が主体となって開催しています。
- ・**実施継続中**平成 27 年度に作成した、在宅療養についてまとめた市民向けガイドブック「望む暮らしをわがまちで」を R 元年度に改訂し、配布しています。

〈実施における主な課題〉

【在宅医療の推進】

- ・在宅療養相談支援センターの各圏域での活動を通じた周知

【退院支援からの日常の療養支援】

- ・退院調整ルール策定後の運用と定期的な見直し

【看取り】

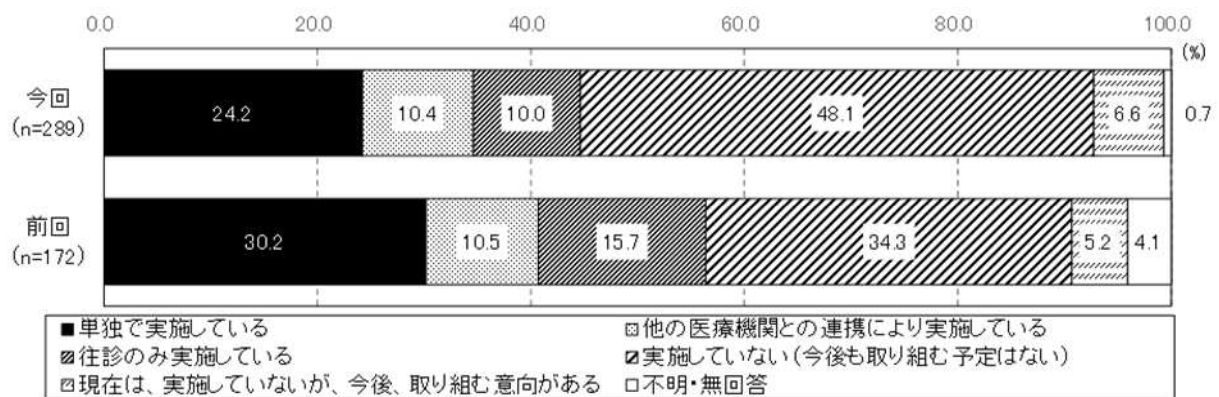
- ・市民向けガイドブック「望む暮らしをわがまちで」のさらなる普及啓発

〈現状〉

【在宅医療の推進】

- 医療機関向けアンケートの調査結果によると、在宅医療を実施している医科診療所の割合は以前よりやや低くなっています。

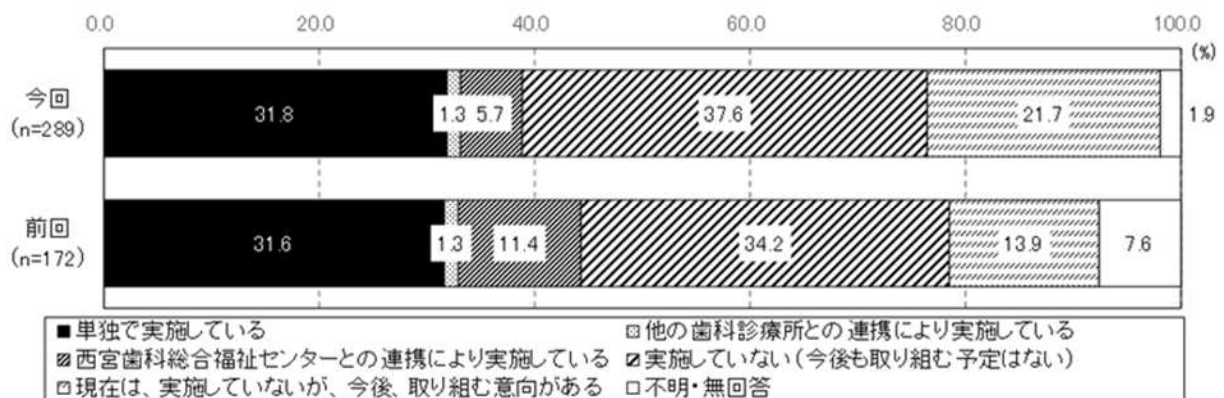
〈医科診療所の在宅医療の実施状況〉



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

- 医療機関向けアンケートの調査結果によると、在宅歯科診療を実施している歯科診療所の割合は前回実施時と大きな変化は見られません。一方で、「現在は、実施していないが、今後、取り組む意向がある」と回答した割合は、21.7%で、前回実施時より8ポイント程度上昇しています。

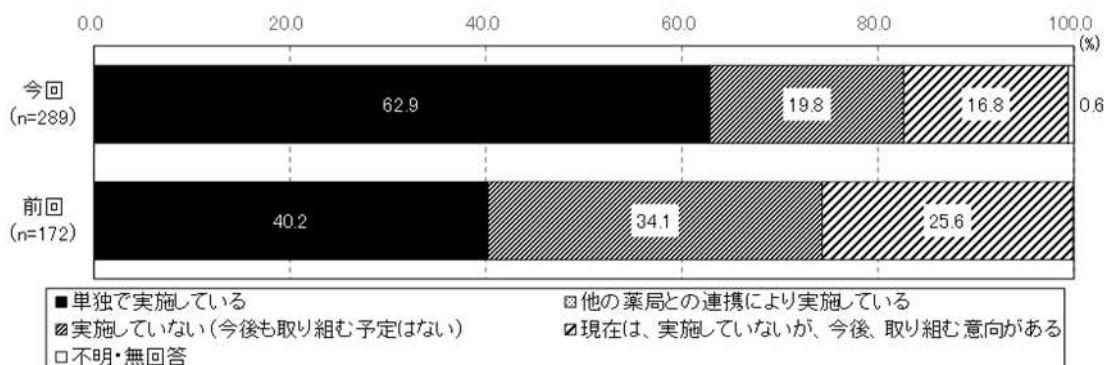
〈歯科診療所の在宅歯科医療の実施状況〉



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

- 医療機関向けアンケートの調査結果によると、訪問薬剤管理指導を実施している薬局の割合は前回実施時と比べ22.9ポイント上昇し62.9%となっています。また、実施していない薬局の割合は14.3ポイント減少し、16.8%となっています。

＜薬局の訪問薬剤管理指導の実施状況＞



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

- 医療機関向けアンケートの調査結果によると、在宅医療を実施していて苦勞することとして、医科診療所と薬局では「時間的に拘束されること」、歯科診療所では「在宅歯科診療での治療可能な内容の限界」、訪問看護ステーションでは「スタッフの確保」が最も多くなっています。

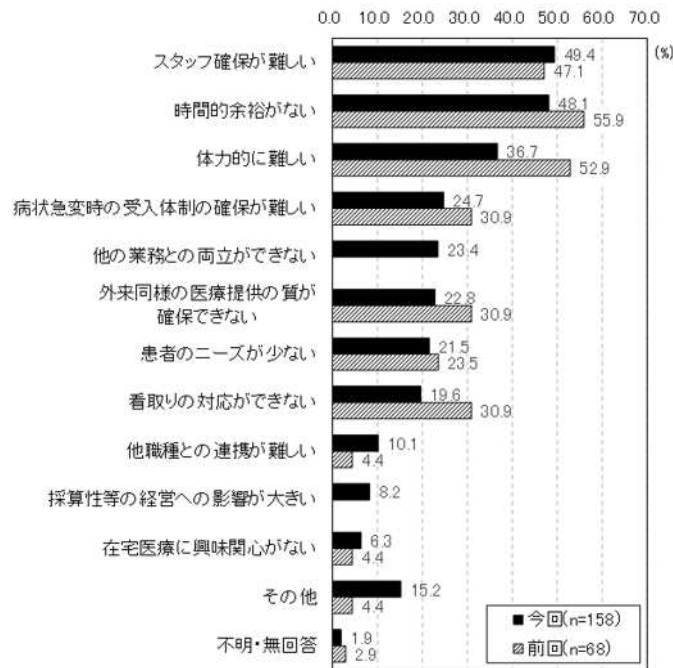
＜在宅医療を実施していて苦勞すること（複数回答可）（%）＞

	医科診療所 (n=129)	歯科診療所 (n=61)	薬局 (n=105)	訪問看護ST (n=30)
体力的な負担が大きいこと	46.5	45.9	16.2	33.3
スタッフの確保	7.8	29.5	44.8	66.7
他職種との調整・連絡体制	20.9	23.0	30.5	60.0
時間的に拘束されること	52.7	44.3	62.9	30.0
在宅医療(在宅歯科診療)に関する医療材料・機器の確保	16.3	21.3	11.4	30.0
病状急変時の受入体制の確保	34.9	23.0	22.9	33.3
患者や家族の理解・協力を得ること	20.9	14.8	15.2	56.7
在宅歯科診療での治療可能な内容の限界	-	57.4	-	-
他の業務との両立	31.0	18.0	46.7	-
採算性等の経営への影響	7.0	21.3	15.2	-
その他	5.4	3.3	2.9	10.0

資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（令和元年実施）

- 医療機関向けアンケートの調査結果によると、在宅医療の未実施理由として、「スタッフの確保が難しいこと」を選んだ割合が2.3ポイント上昇し、49.4%と最も多くなっています。一方、前回調査実施時に最上位であった「体力的余裕がない」を選んだ割合は16.2ポイント低下しています。

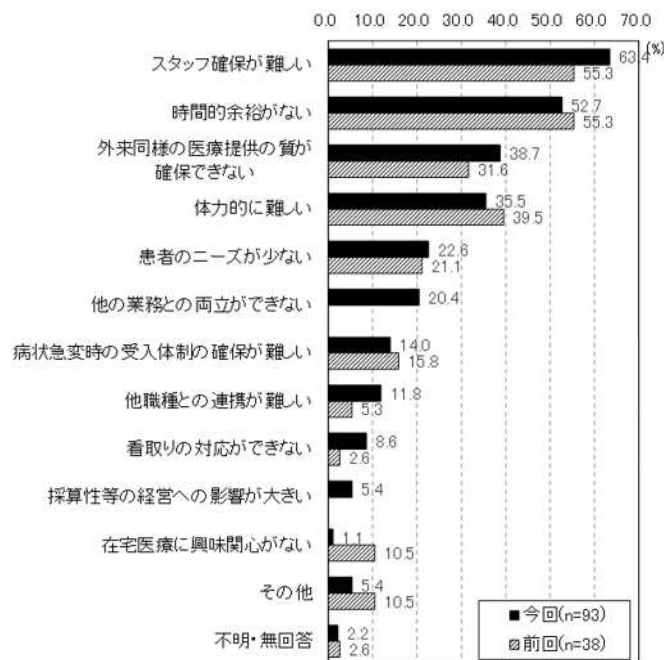
＜医科診療所の在宅医療の未実施理由＞



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

- 医療機関向けアンケートの調査結果によると、在宅歯科医療の未実施理由として、「スタッフの確保が難しいこと」を選んだ割合は、63.4%で、前回実施時より8.1ポイント上昇し、前回同様最上位となっています。

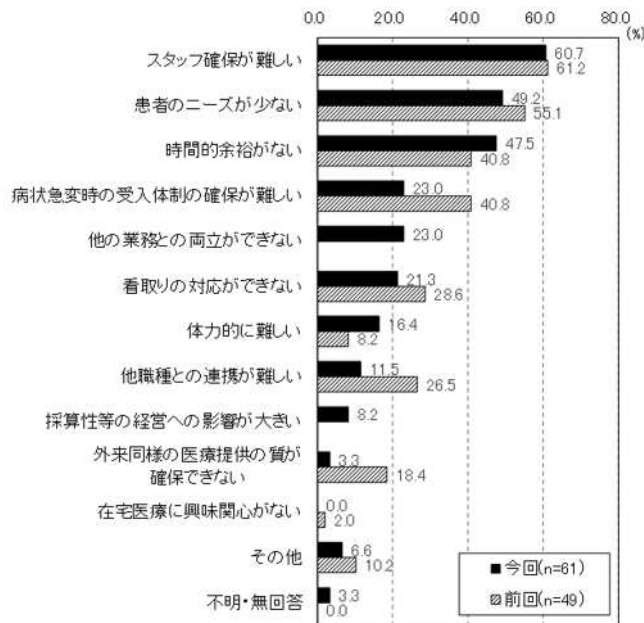
＜歯科診療所の在宅歯科医療の未実施理由＞



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

- 医療機関向けアンケートの調査結果によると、訪問薬剤管理指導の未実施理由として、「スタッフの確保が難しいこと」を選んだ割合が60.7%と前回同様最上位となっています。

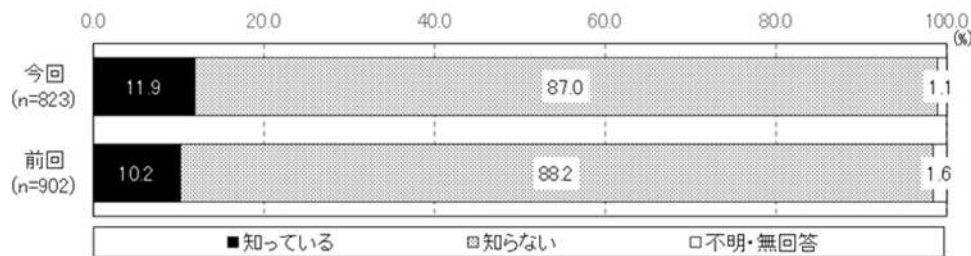
＜薬局の訪問薬剤管理指導の未実施理由＞



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

- 市民向けアンケートの調査結果によると、居住地区で在宅医療に取り組む医師の認知率は11.9%となっており、前回調査（10.2%）と大きな差はありません。

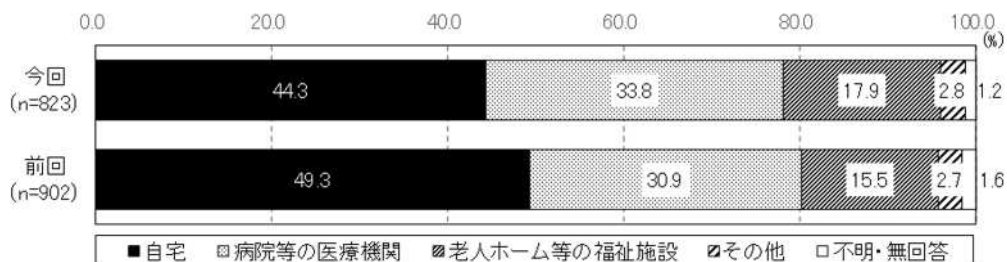
＜居住地区で在宅医療に取り組む医師の認知状況＞



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

- 市民向けアンケートの調査結果によると、医療・介護が必要になった場合、主に過ごしたい場所としては、「自宅」が44.3%で最も多く、「病院等の医療機関」（33.8%）が続きます。また、「自宅」は前回調査（49.3%）から5ポイント程度減少しています。

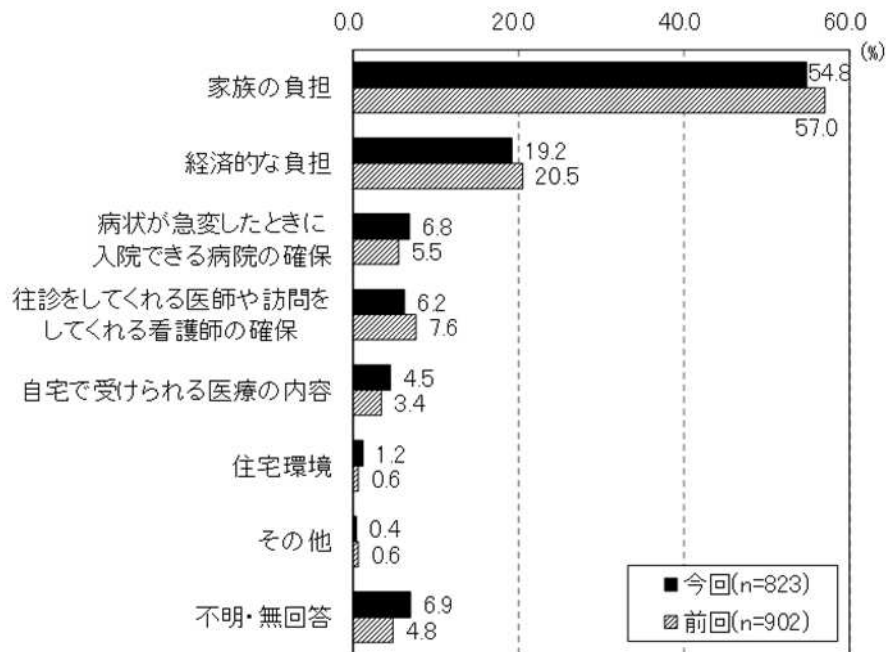
＜医療・介護が必要になった場合、主に過ごしたい場所＞



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

- 市民向けアンケートの調査結果によると、「自分自身が在宅医療を受ける場合、最も気になること」として、「家族の負担」を回答した割合が54.8%と前回実施時同様最も多くなっています。また「経済的な負担」を選択した割合も19.2%と、前回実施時同様2番目に多くなっています。

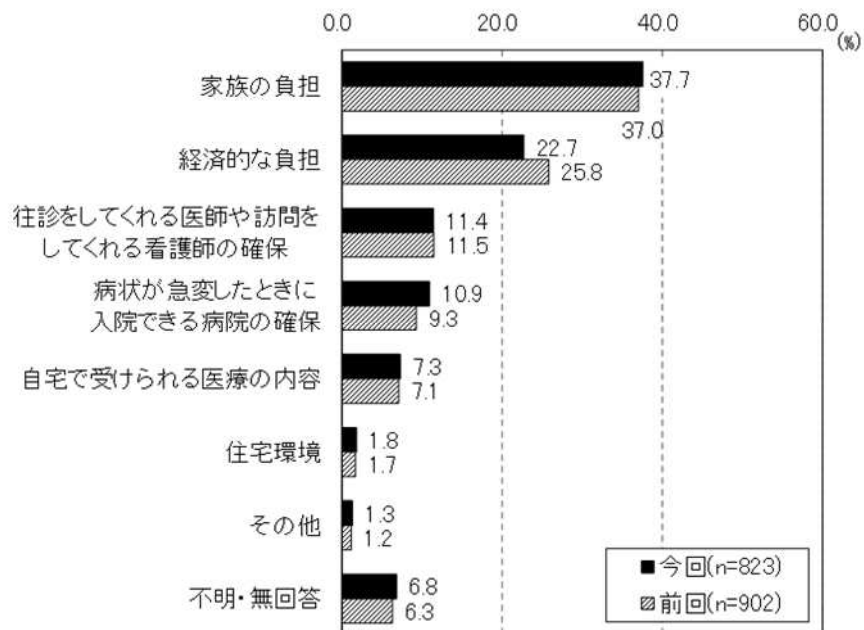
＜自分自身が在宅医療を受ける場合で最も気になること＞



＜家族が在宅医療を受ける場合で最も気になること＞

- 市民向けアンケートの調査結果によると、「家族が在宅医療を受ける場合、最も気になること」として、「家族の負担」を選択した割合が、約37.7%と前回実施時同様最も多くなっています。一方、「自分自身が在宅医療を受ける場合、最も気になること」と比較すると20ポイント程度低くなっています

資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

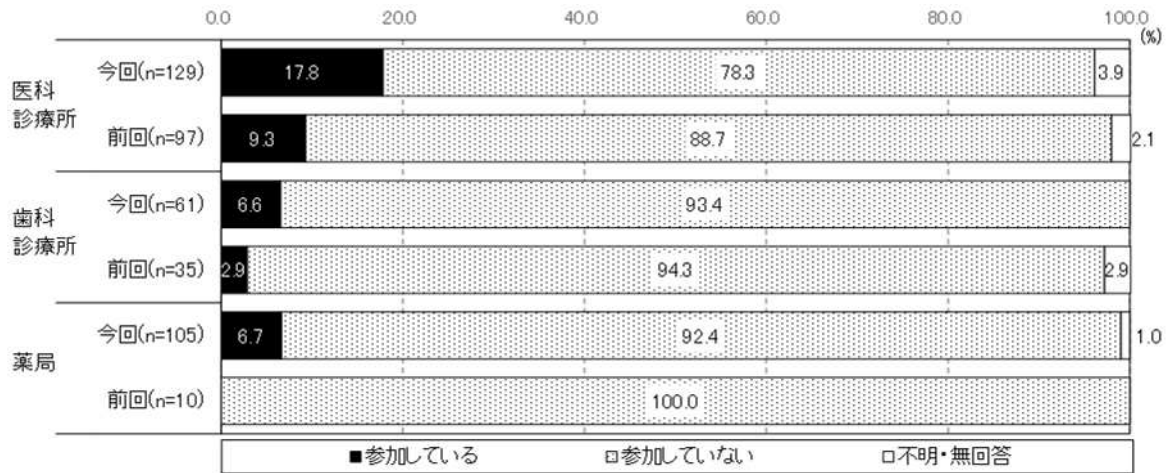


資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

【退院支援からの日常の療養支援】

- 医療機関向けアンケートの調査結果によると、病院からの退院患者（受け持ち患者）の退院時カンファレンスの参加状況において、医科診療所で参加している割合は17.8%、歯科診療所では6.6%、薬局では6.7%となっています。また、医科診療所や歯科診療所、薬局のすべてで退院時カンファレンスに参加している割合が前回調査と比べて増加しています。

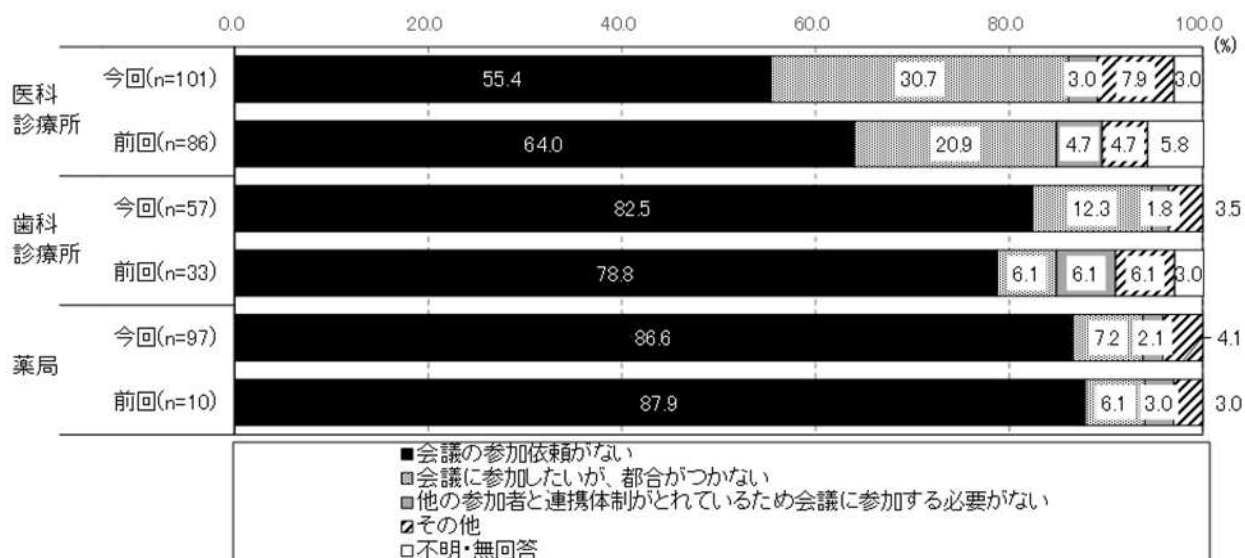
＜退院時カンファレンスの参加状況＞



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

- 医療機関向けアンケートの調査結果によると、病院からの退院患者（受け持ち患者）の退院時カンファレンスに参加していない理由として、依然として、医科診療所や歯科診療所、薬局で「会議の参加依頼がない」が最も多くなっています。
- また、医科診療所では「会議の参加依頼がない」（55.4%）は前回調査（64.0%）から10ポイント程度減少し、「会議に参加したいが、都合がつかない」（30.7%）は前回調査（20.9%）から10ポイント程度増加しています。さらに、歯科診療所でも「会議に参加したいが、都合がつかない」（12.3%）は前回調査（6.1%）から2倍程度増加しています。

＜退院時カンファレンスに参加していない理由（前回比較）＞

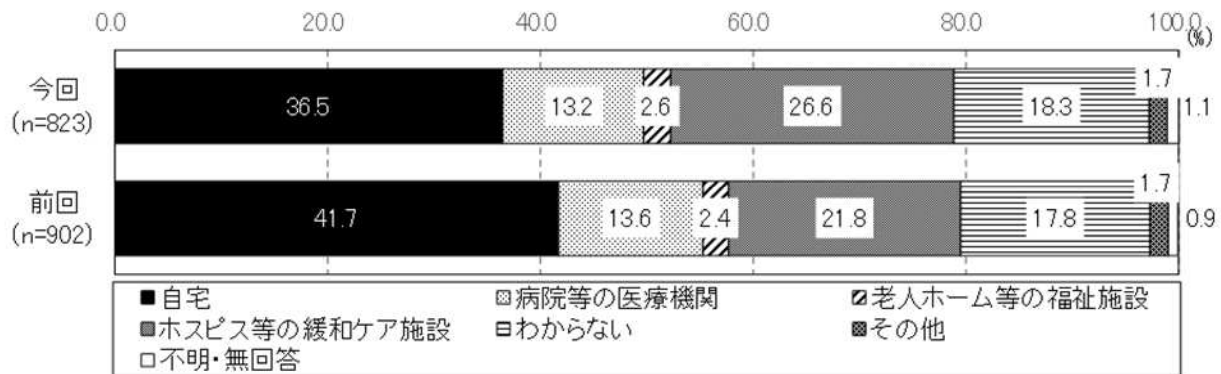


資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

【看取り】

- 市民向けアンケートの調査結果によると、治る見込みがない病気になった場合、人生の最期を迎えたい場所としては、「自宅」が36.5%で最も多く、「ホスピス等の緩和ケア施設」(26.6%)が続きます。
- また、「自宅」は前回調査(41.7%)から5ポイント程度減少し、一方で「ホスピス等の緩和ケア施設」は前回調査(21.8%)から5ポイント程度増加しています。

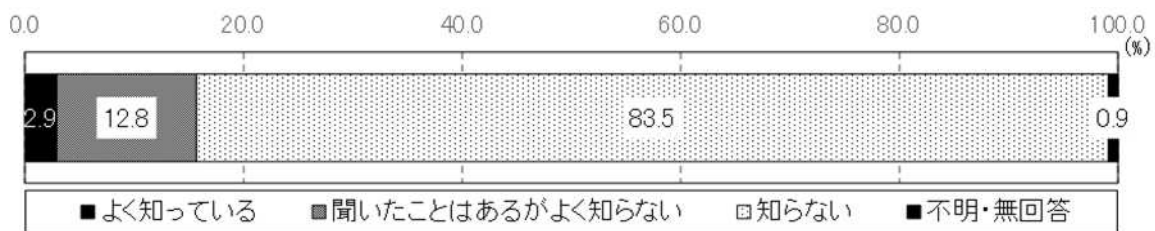
＜治る見込みがない病気になった場合、人生の最期を迎えたい場所＞



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

- 市民向けアンケートの調査結果によると、アドバンス・ケア・プランニング（人生会議）の認知度は2.9%で、「知らない」が83.5%と多くを占めています。

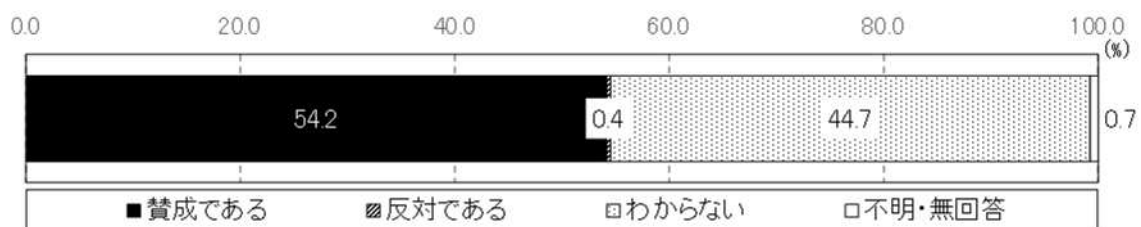
＜アドバンス・ケア・プランニング（人生会議）の認知状況＞



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（令和元年実施）

- 市民向けアンケートの調査結果によると、アドバンス・ケア・プランニング（人生会議）のような話し合いを進めることに「賛成である」との回答割合は54.2%と過半数を占めています。一方で、「反対である」との回答割合は0.4%にとどまっています。

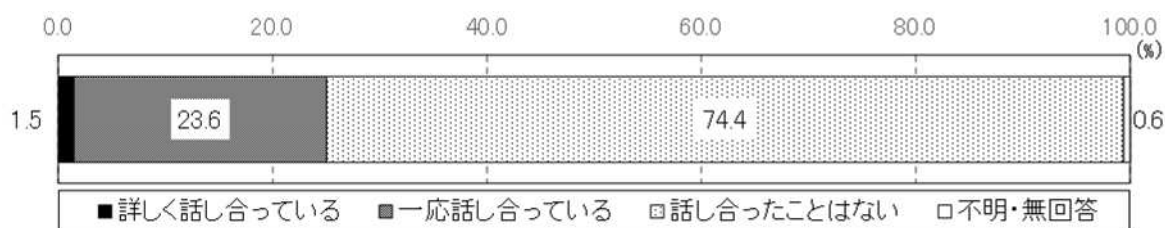
＜アドバンス・ケア・プランニング（人生会議）への賛否＞



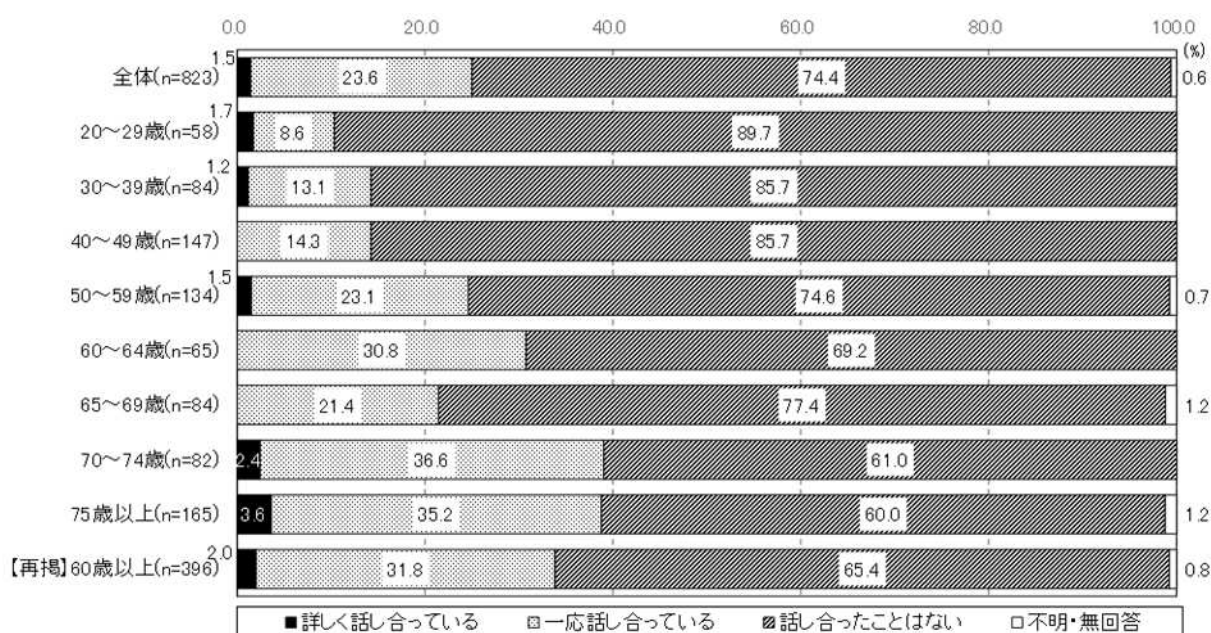
資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（令和元年実施）

- 市民向けアンケートの調査結果によると、「死」が近い場合に受けない・受けたくない医療・療養について、「詳しく話し合っている」との回答割合は1.5%、「一応話し合っている」との回答割合は23.6%となっており、何らかの話し合いを実施している人は25.1%となっています。「詳しく話し合っている」「一応話し合っている」と回答した人の割合は、年齢層が上昇するほど高くなる傾向にあります。

＜「死」が近い場合に受けない・受けたくない医療・療養についての話し合いの実施状況＞



＜「死」が近い場合に受けない・受けたくない医療・療養についての話し合いの実施状況（年齢層別）＞



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（令和元年実施）

＜今後の方向性＞

【在宅医療の推進】

- ・維持・継続在宅療養相談支援センターの活動を通じて、医療・介護関係者との連携を強化します。
- ・維持・継続かかりつけ医及びかかりつけ薬剤師（薬局）の役割について関係団体と協力し、積極的に普及啓発に努めます。

【退院支援からの日常の療養支援】

- ・維持・継続標準的な退院調整ルール（手引き）作成後も、ルールの普及を図るとともに、運用をしながら定期的に見直し、退院調整実施率の向上に向けた取り組みを行います。

【看取り】

- ・維持・継続引き続き市民にわかりやすく在宅療養について普及啓発をしていくとともに、医療介護従事者を対象とした看取りの事例検討会について検討していきます。
- ・維持・継続改訂した市民向けガイドブック「望む暮らしをわがまちで」を市民に身近なところで配布します。

基本目標 2 住み慣れた地域で適切な医療が受けられるまち

施策① 在宅医療・介護連携体制の構築 - (2) 在宅医療・介護連携の推進 (計画 58 頁～62 頁記載)

〈主な今後の取組（推進方針）〉

【在宅医療・介護連携】（60 頁）

- ・在宅医療と介護の連携を促す相談支援拠点の整備
- ・医療、介護等多職種で構成されたメディカルケアネット西宮などが実施する専門職向けの研修会や事例検討会の実施による「顔の見える関係づくり」、関係者のネットワーク作りの推進
- ・医療、介護等の多職種を含む関係者の協働を目的とした情報共有ツールの導入・普及
- ・訪問診療や往診を行う診療所の情報や介護サービス事業所の特徴などの地域資源の把握
- ・高齢者あんしん窓口の高齢者にかかる総合相談窓口としての機能強化と医療機関との連携推進

〈施策実施状況（計画策定時からの比較）〉

【在宅医療・介護連携】

- ・**拡大実施** 市内 5 つの医療介護連携圏域に在宅療養相談支援センターを設置しました（再掲）
- ・**実施継続中** メディカルケアネット西宮が主体となり多職種連携のための事例検討会等を実施しています。

＜参考 事例検討会・勉強会実施状況＞

	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 (令和元) 年度 ※令和元年 9 月末現在
事例検討会	3 回 (5 圏域ごとに実施) 延べ 667 人参加	3 回 (5 圏域ごとに実施) 延べ 781 人参加	1 回 (5 圏域ごとに実施) 延べ 247 人

- ・**実施継続中** 平成 28 年 1 月に、ご本人、ご家族と多職種の支援者が協働できるよう、情報共有ツールである「みやっこケアノート」を作成した他、普及・活用のために市民も参加できる研修会等を実施し、随時内容の見直しも行っていきます。

＜参考 みやっこケアノート普及活動＞

	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 (令和元) 年度 ※令和元年 9 月末現在
研修会 : 3 回実施 延べ 91 人参加		研修会 : 3 回実施 116 人参加	研修会 : 1 回実施 34 人参加

- ・**実施継続中** 在宅療養相談支援センターが中心となり、資源の把握調査を行い、医療介護関係者からの相談やコーディネートをを行っています。
- ・**実施継続中** 地域ケア個別会議や地区ネットワーク会議を活用し、地域支援ネットワークの構築を進めながら、相談窓口としての高齢者あんしん窓口の強化を図っています。

＜参考 地域ケア会議の開催数＞

	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 (令和元) 年度 ※令和元年 9 月末現在
開催数	367 回	458 回	229 回

〈実施における主な課題〉

【在宅医療・介護連携】

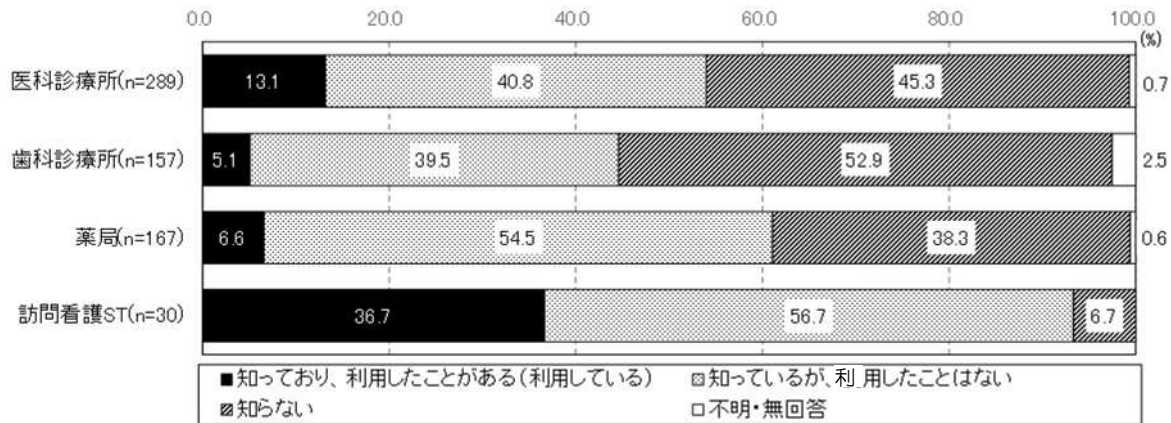
- ・5 圏域それぞれの在宅療養相談支援センター機能の質の向上
- ・医療・介護資源のリアルタイムな把握や公開の方法
- ・各種事例検討会の参加者の固定化に対する今後の参加職種の拡大

〈現状〉

【在宅医療・介護連携】

- 医療機関向けアンケートの調査結果によると、在宅療養相談支援センターの認知率は、医科診療所で 53.9%、歯科診療所で 44.6%、薬局で 61.1%、訪問看護ステーションで 93.4%となっています。また、「知っており、利用したことがある（利用している）」の回答割合（利用率）については、訪問看護ステーションが 36.7%となっていますが、医科診療所は 13.1%、薬局は 6.6%、歯科診療所は 5.1%にとどまっています。
- 総じて、医科診療所や歯科診療所、薬局は、訪問看護ステーションと比べて、認知率と利用率が低くなっています。

〈在宅療養相談支援センターの認知・利用状況〉



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（令和元年実施）

- 医療機関向けアンケートの調査結果から、在宅医療を進めるうえで、今までどの医療機関・事業所等と連携してきたかをみると、病院では「医科診療所」と「居宅介護支援事業所」、医科診療所では「病院（急性期）」、歯科診療所と薬局では「医科診療所」、訪問看護ステーションでは「病院（急性期）」と「薬局」が最も多くなっています。また、歯科診療所以外では、「訪問看護ステーション」を連携先とする機関が多くなっています。

〈在宅医療を進めるうえで、今までどの医療機関・事業所等と連携してきたか（複数回答可） (%)〉

	病院（急性期）	病院（療養型）	医科診療所	歯科診療所	薬局	訪問看護ステーション	介護保険施設	居宅介護支援事業所	訪問介護事業所	地域包括支援センター	在宅療養相談支援センター	その他
病院(n=14)	50.0	57.1	71.4	35.7	42.9	64.3	64.3	71.4	50.0	64.3	35.7	0.0
医科診療所(n=129)	72.1	38.0	42.6	20.2	45.7	71.3	26.4	30.2	34.1	40.3	6.2	2.3
歯科診療所(n=61)	21.3	16.4	36.1	13.1	8.2	24.6	26.2	19.7	23.0	18.0	6.6	9.8
薬局(n=105)	24.8	15.2	69.5	1.0	4.8	60.0	10.5	51.4	41.0	34.3	2.9	1.0
訪問看護ST(n=30)	93.3	56.7	83.3	40.0	93.3	80.0	36.7	86.7	80.0	80.0	20.0	20.0

資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（令和元年実施）

- 医療機関向けアンケートの調査結果によると、今後、在宅医療を推進していくうえで、重要と考える事項として、病院や歯科診療所、薬局では「医療・介護・福祉によるネットワークの構築」、医科診療所では「病状急変時の入院体制の充足」、訪問看護ステーションでは「在宅医療に関する人材の育成」が最も多くなっています。

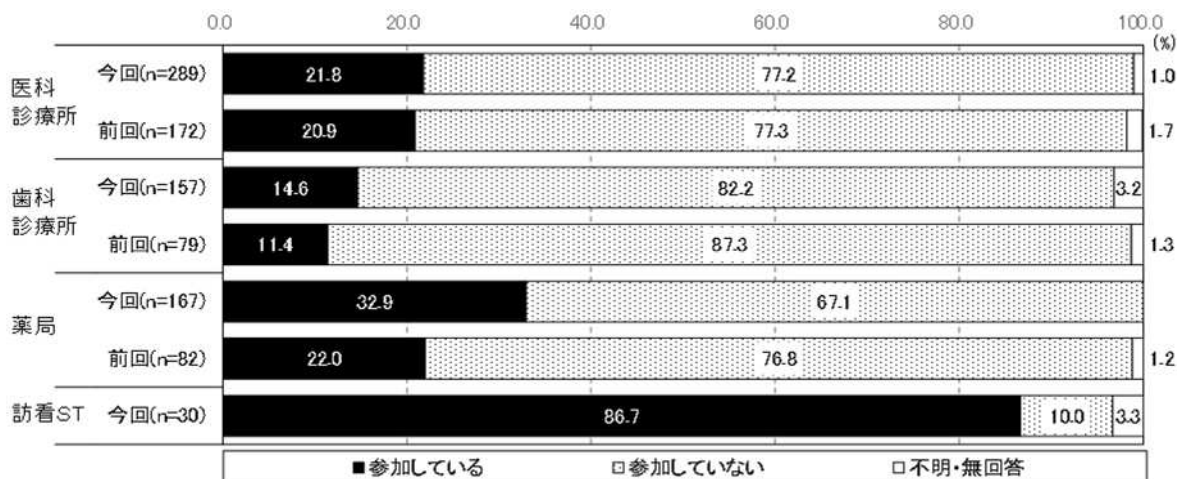
＜今後、在宅医療を推進していくうえで、重要と考える事項（複数回答可）（％）＞

	在宅医療ネットワーク整備の	医療・介護・福祉によるネットワークの構築	病状急変時の入院体制の充足	かかりつけ医の充足	訪問歯科診療の充足	訪問薬剤管理指導の充足	訪問看護ステーションの充足	在宅医療に関する人材の育成	必要な機材・器具の整備	市民への在宅医療の普及啓発	介護家族への支援体制の確保	その他
病院(n=14)	42.9	71.4	35.7	14.3	0.0	14.3	7.1	28.6	0.0	7.1	42.9	0.0
医科診療所(n=289)	43.3	45.7	57.4	15.2	2.4	3.5	15.2	17.3	5.2	8.3	26.3	3.8
歯科診療所(n=157)	40.8	41.4	21.7	8.9	15.3	1.3	3.8	22.9	26.8	18.5	14.6	5.1
薬局(n=167)	56.9	55.7	19.2	11.4	1.2	15.0	6.0	25.1	3.0	19.2	31.7	2.4
訪問看護ST(n=30)	60.0	53.3	33.3	30.0	10.0	16.7	13.3	63.3	13.3	33.3	30.0	16.7

資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（令和元年実施）

- 医療機関向けアンケートの調査結果から、多職種が定期的を実施する情報交換・事例検討の場に参加しているとの回答割合は、医科診療所で21.8%、歯科診療所で14.6%、薬局で32.9%、訪問看護ステーションでは86.7%となっています。
- 薬局と歯科診療所では、前回調査と比べると参加しているとの回答割合が増加しています。特に、薬局では前回調査から10ポイント程度増加しています。

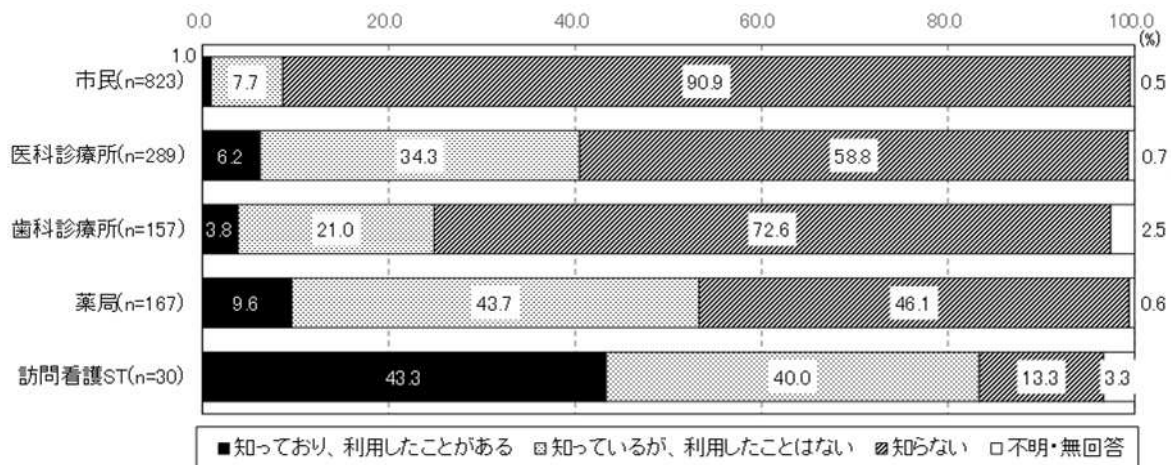
＜多職種が定期的を実施する情報交換・事例検討の場への参加状況＞



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

- 市民向けアンケートと医療機関向けアンケートの調査結果によると、みやっこケアノートの認知率は、市民で8.7%、医科診療所で40.5%、歯科診療所で24.8%、薬局で53.3%、訪問看護ステーションで83.3%となっています。また、「知っており、利用したことがある」の回答割合（利用率）については、訪問看護ステーションが43.3%となっていますが、薬局は9.6%、医科診療所は6.2%、歯科診療所は3.8%にとどまっています。
- 総じて、医科診療所や歯科診療所、薬局は、訪問看護ステーションと比べて、認知率と利用率が低くなっています。

＜みやっこケアノートの認知・利用状況＞



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（令和元年実施）

＜今後の方向性＞

- ・維持・継続 圏域ごとの多職種連携がより強化できるよう、在宅療養相談支援センター機能の質の向上を図ります。
- ・維持・継続 メディカルネット西宮を中心に事例検討会、勉強会等の実施を継続するとともに、内容の工夫等を行い、参加職種を広げ、圏域内の多職種連携をより強化できるよう取組を進めていきます。
- ・維持・継続 地域ケア会議を活用し、医療機関との連携強化に取り組み、高齢者あんしん窓口の相談窓口としての機能強化を図っていきます。

基本目標 2 住み慣れた地域で適切な医療が受けられるまち

施策① 在宅医療・介護連携体制の構築 -(3) 認知症対策

(計画 63 頁～65 頁記載)

〈推進方針〉

【認知症対策】(65 頁)

- ・ 認知症サポーターの養成、認知症ケアパスの導入を進める等の地域での支援体制の構築の推進
- ・ 高齢者あんしん窓口職員や介護関係者等の支援者への研修等実施を通じた対応力の向上、連携強化
- ・ 複数の専門職が家庭を訪問し早期のアセスメント、受診勧奨を実施する「認知症初期集中支援チーム」の設置

〈施策実施状況(計画策定時からの比較)〉

【認知症対策】

- ・ **実施継続中** 市民及び介護事業所等の支援者に対し、認知症への理解を深める取組を実施し、**地域での支援体制の構築**を推進しています。

〈参考 地域での支援体制の構築に向けた主な取組の実施状況〉

	取組内容	平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	平成 31 (令和元) 年度実績 (9 月末現在)
認知症サポーター養成講座の開催	講座を開催し、認知症の方や家族の方を地域であたたく見守り、応援する人材の育成を行う	認知症サポーター養成講座 開催 123 回 (受講者 2,826 人)	認知症サポーター養成講座 開催 102 回 (受講者 3,506 人)	認知症サポーター養成講座 開催 49 回 (受講者 1,019 人)
認知症ケアパスの作成・配布	国の新オレンジプラン(認知症施策推進総合戦略)に定める認知症ケアパスの普及に取り組む	地域の資源をより詳細に記載する地域版認知症ケアパスの作成に取り組み、大社地区、小松地区の2地域で作成した	地域版認知症ケアパスの作成の作成に取り組み、新たに北六甲台地区で作成した(計3地区)	地域版認知症ケアパスの作成の作成に取り組み、新たに鳴尾西地区で作成した(計4地区)
認知症地域支援推進員の配置	高齢者あんしん窓口認知症地域支援推進員を配置、地域の支援機関を繋ぐ連携支援や本人・家族を支援するための支援を実施	2名配置	2名配置	2名配置
認知症 SOS メール配信事業	認知症により、行方不明となる恐れのある方の氏名・写真等を事前に登録し、行方不明となった場合に協力者へ電子メールで情報提供しいち早く発見・保護へつなげている	【登録者】 対象者数 71 名 捜索協力者 815 名	【登録者】 対象者数 96 名 捜索協力者 960 名	【登録者】 対象者数 107 名 捜索協力者 1024 名

- ・**実施継続中** 関連団体との協働を図り、ネットワーク体制の構築を進めるため「にしのみや認知症つながりフェア」を開催しています。

<参考 研修会・フェアの実施状況>

取組内容	平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	平成 31 (令和元) 年度実績
関連団体との共催による認知症関連フェアの開催	「にしのみや認知症つながりフェア」 開催 1 回 (参加団体:40 団体) (参加者数 250 人)	「にしのみや認知症つながりフェア」 開催 1 回 (参加団体:37 団体) (参加者数 255 人) ※平成 30 年 11 月 日開催	「にしのみや認知症つながりフェア」 開催 2 回 (参加団体:33 団体) (参加者数 346 人) ※令和元年 9 月 11 日 及び 9 月 16 日開催

- ・**新規実施** 平成 29 年 6 月から業務委託により認知症初期集中支援チームを設置し、支援を実施しています。

<参考 実績>

	平成 29 年度 (H29. 6～H30. 3 未迄)	平成 30 年度 (H30. 4～H31. 3 未迄)	平成 31 (令和元) 年度 (H31. 4～R1. 9 未迄)
新規受付件数	58 件	70 件	43 件

<実施における主な課題>

【認知症対策】

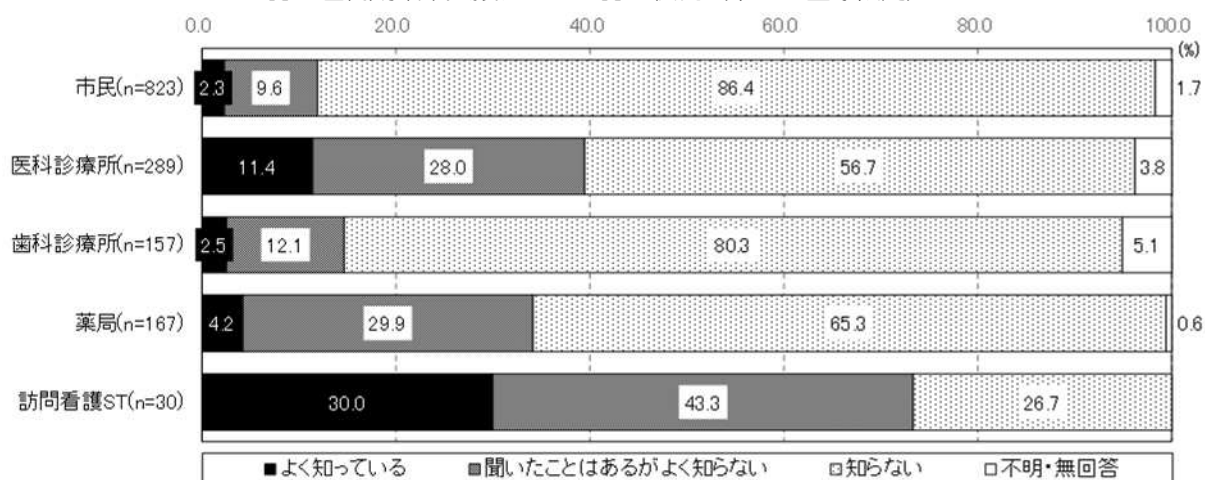
- ・認知症サポーター養成講座受講者の認知症支援の活動への参加促進・支援
- ・地域別のより詳細な地域資源の整理・周知の推進
- ・「にしのみや認知症つながりフェア」の継続的な開催に向けた認知症支援の関係団体との連携の強化
- ・認知症初期集中支援チームの支援対象者の選別、高齢者あんしん窓口等関係機関との役割分担、支援チーム員の人員増等の検討

<現状>

【認知症対策】

- 市民向けアンケートと医療機関向けアンケートの調査結果によると、認知症初期集中支援チームの認知度は、市民で 2.3%、医科診療所で 11.4%、歯科診療所で 2.5%、薬局で 4.2%、訪問看護ステーションで 30.0% となっています。

<認知症初期集中支援チームの認知状況（市民・医療機関）>



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（令和元年実施）

- 医療機関向けアンケートの調査結果から、認知症に関する各種パンフレット等の認知・配架状況をみると、医科診療所や歯科診療所、薬局では「若年性認知症を知っていますか」が4～5割を占めて最も多く、訪問看護ステーションでは「兵庫県版認知症チェックシート」が50.0%で最も多くなっています。「西宮市認知症サポートべんり帳（認知症ケアパス）」については、訪問看護ステーション以外の機関では3割程度となっています。

＜認知症に関する各種パンフレット等の認知・配架状況（見たことがある・配架している割合）（複数回答）（%）＞

	医科診療所 (n=289)	歯科診療所 (n=157)	薬局 (n=167)	訪問看護ST (n=30)
兵庫県版認知症チェックシート	34.9	21.7	38.3	50.0
「若年性認知症を知っていますか」	52.2	43.3	52.1	46.7
全市版西宮市認知症サポートべんり帳 （認知症ケアパス）	26.0	19.7	24.6	36.7
「正しく知ってみんなで支えよう認知症」	23.5	24.2	22.2	36.7
その他	1.7	3.2	1.8	0.0
不明・無回答	29.1	35.0	24.0	36.7

資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（令和元年実施）

- 医療機関向けアンケートの調査結果によると、認知症対策をしていくうえで、必要と感じていることとしては、病院では「身体合併症や周辺症状がある患者に対する専門医療機関同士の連携」、医科診療所や歯科診療所、薬局、訪問看護ステーションでは「家族への支援の充実」が最も多くなっています。また、訪問看護ステーションでは、「身体合併症や周辺症状がある患者に対する専門医療機関同士の連携」も多くなっています。

＜認知症対策をしていくうえで、必要と感じていること（複数回答）（%）＞

	関係する身体合併症や周辺症状がある患者との連携	認知症予防に関する取組	認知症予防に関する取組	にかかりつけ医や介護従事者	家族等への支援の充実	その他	不明・無回答
病院(n=14)	71.4	50.0	35.7	35.7	28.6	0.0	7.1
医科診療所(n=289)	51.6	49.1	26.3	16.6	53.3	1.0	4.5
歯科診療所(n=157)	35.0	43.3	29.9	16.6	54.1	2.5	3.8
薬局(n=167)	30.5	59.9	30.5	15.0	60.5	0.6	1.2
訪問看護ST(n=30)	76.7	60.0	30.0	23.3	83.3	6.7	0.0

〈今後の方向性〉

【認知症対策】

- ・**維持・継続** 地域・団体・企業等を対象に実施し、**認知症サポーターの養成**を行うとともに、養成講座受講者でボランティア活動を希望する方に対して、**フォローアップ講座**を開催し、**活動調整等の支援**を行います。
- ・**拡充** 地域版認知症ケアパスについて、更なる地域での作成のため、**地域の関係団体と調整・協議**を進めていきます。
- ・**維持・継続** 「にのみや認知症つながりフェア」を今後も継続的に開催できるよう認知症支援の関係団体との連携を進めていきます。
- ・**拡充** 今後支援対象者の増も見込まれることから、支援チーム員の増員等についても検討していきます。

基本目標 2 住み慣れた地域で適切な医療が受けられるまち

施策② 医療連携の推進

(計画 66 頁～70 頁記載)

〈推進方針〉

【かかりつけ医】(69 頁)

- ・かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師(薬局)の役割についての周知・普及啓発

【周産期医療】(69 頁)

- ・ハイリスク妊婦の早期発見と安全な出産のための妊婦健診受診への取組の強化

【精神科医療】(70 頁)

- ・精神疾患のある方が地域で病状に応じた医療や生活支援を受けるための取組の実施

【歯科医療】(70 頁)

- ・障害のある人への歯科治療についての後送体制の確保

〈施策実施状況(計画策定時からの比較)〉

【かかりつけ医】

- ・**実施継続中**かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師(薬局)の役割について市ホームページへの掲載、パンフレット作成・配布等により周知・普及啓発を行っています。

【周産期医療】

- ・**実施継続中**妊娠届受理時、保健師面接が可能な窓口では妊婦全員に**保健師面接を実施**し、妊婦健診受診について指導を実施しているほか、妊娠届から把握された**ハイリスク妊婦**に対して台帳を作成し、適宜相談指導を行い、産後も継続的に支援を行っています。なお、出産前からの支援が特に必要と認められる特定妊婦については、医療機関と連携をとりながら妊娠期からの継続した支援を行っています。

【精神科医療】

- ・**新規実施**平成 28 年度より、**西宮市精神障害者地域移行推進事業**として、委託実施し、長期入院精神障害者の地域移行を推進しています。
- ・**拡大実施**措置入院者等の重篤な精神障害者が、**必要な医療や支援が途切れることなく地域で生活できるための支援体制**を構築するため、平成 29 年度から専従職員を配置しました。

【歯科医療】

- ・**実施継続中**全身麻酔を必要とする処置が必要な患者については、兵庫医科大学病院において一部患者の受け入れを実施しています。

〈実施における主な課題〉

【かかりつけ医】

- ・継続的な取り組みが求められること

【周産期医療】

- ・ハイリスク妊婦に該当しながら、連絡が取りづらい方等へのアプローチ

【精神科医療】

- ・西宮市精神障害者地域移行を進めるうえで重要な**病院、委託先の相談支援事業所、行政の連携体制の構築**

【歯科医療】

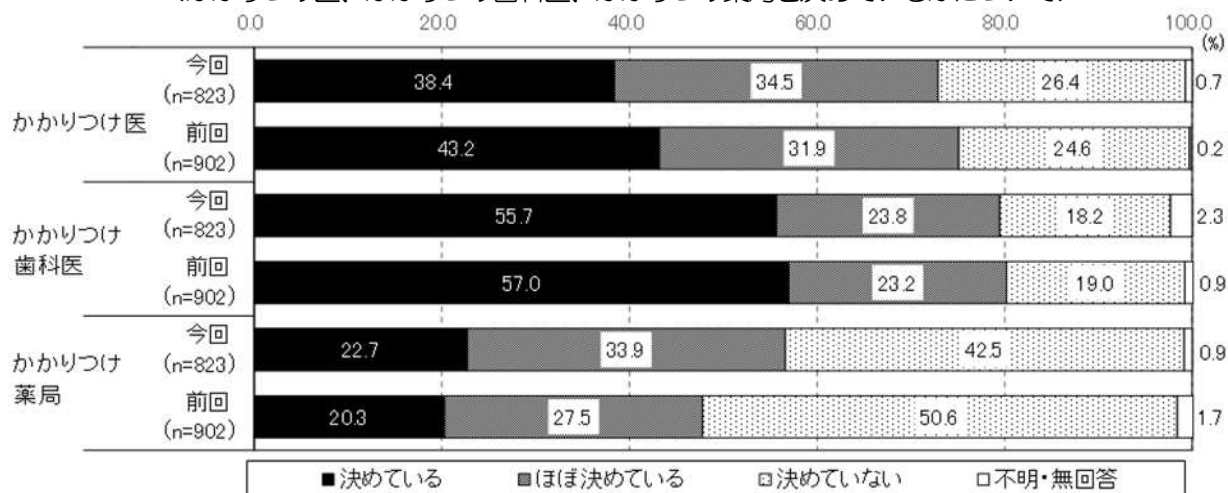
- ・全身麻酔を必要とする処置が必要な患者の受け入れ機関の継続的な確保

〈現状〉

【かかりつけ医】

- 市民向けアンケート調査結果によると、日頃からかかりつけ医を「決めている」の割合は 38.4%で最も多くなっていますが、前回調査(43.2%)からは 5 ポイント程度減少します。また、かかりつけ医を「ほぼ決めている」の割合は 34.5%で、「決めている」の割合との合計は 72.9%となっており、前回調査(75.1%)と大きな差はありません。かかりつけ歯科医を「決めている」の割合は 55.7%、かかりつけ薬局を「決めている」の割合は 22.7%となっており、前回調査(それぞれ 57.0%、20.3%)と大きな差はありません。なお、かかりつけ薬局については、「決めている」と「ほぼ決めている」の合計が 56.6%となっており、前回調査(47.8%)から 10 ポイント程度増加しています。

<かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局を決めているかについて>



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

- かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局ともに年齢が若いほど、「決めている」と「ほぼ決めている」の合計が少ない状態にあり、特に若い世代に向けた周知・啓発が必要となっています。

<かかりつけ医、歯科医、薬局を決めている・ほぼ決めている割合（全体・年齢層別）（%）>

	かかりつけ医	かかりつけ歯科医	かかりつけ薬局
全体(n=823)	72.9	79.5	56.6
20～29歳(n=58)	50.0	58.6	31.0
30～39歳(n=84)	58.3	73.8	52.4
40～49歳(n=147)	69.4	77.6	52.4
50～59歳(n=134)	61.9	79.1	48.5
60～64歳(n=65)	73.8	84.6	47.7
65～69歳(n=84)	76.2	86.9	59.5
70～74歳(n=82)	81.7	84.1	59.8
75歳以上(n=165)	94.5	84.8	78.2

資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（令和元年実施）

【周産期医療】

<ハイリスク妊婦への支援状況（述ベ）>

平成30年度	平成31（令和元）年度 ※平成31年9月末現在（前年度からの繰り越しを含む）
265人（うち特定妊婦40人）	173人（うち特定妊婦21人）

【精神科医療】

- 医療機関向けアンケート調査結果によると、精神科医療を進めるうえで、必要と感じていることとして、病院と医科診療所では「精神科救急医療システムの充実」、歯科診療所では「うつ病などの精神疾患に対する知識の普及啓発の充実」、薬局では「睡眠薬や抗不安薬の適正処方知識の普及啓発」、訪問看護ステーションでは「身体疾患と精神疾患を合併した患者に対する医療の確保」が最も多くなっています。

＜精神科医療を進めるうえで、必要と感じていること（複数回答）（%）＞

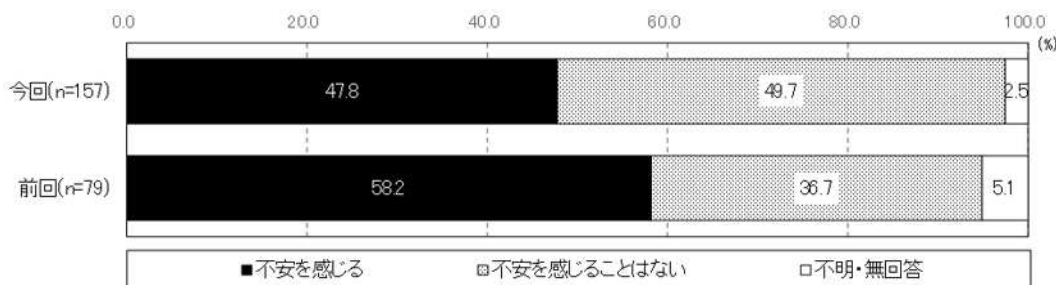
	精神科救急医療システムの充実	G-Pネット（一般医と精神科専門医との連携）の充実	精神科専門医等の連携体制の健全化	精神科入院患者が退院して地域で生活できるようにする	精神科入院患者が退院して地域で生活できるようにする	身体疾患と精神疾患を合併した患者に対する医療の確保	児童期の精神疾患に対する医療の確保	アルコールや薬物などの依存症に対する医療の確保	うつ病などの精神疾患に対する知識の普及啓発の充実	睡眠薬や抗不安薬の適正処方知識の普及啓発	一般医や市民が精神科医療に関して気軽に相談できる専門窓口の設置	家族等への支援の充実	その他	不明・無回答
病院(n=14)	64.3	14.3	14.3	35.7	28.6	21.4	35.7	0.0	0.0	7.1	14.3	0.0	7.1	
医科診療所(n=289)	35.3	22.8	17.0	11.1	29.4	13.5	15.9	11.4	23.2	26.0	13.8	0.7	6.9	
歯科診療所(n=157)	22.9	13.4	15.3	12.7	14.0	10.2	7.0	29.3	21.0	26.1	23.6	5.7	7.6	
薬局(n=167)	13.2	20.4	7.8	22.8	8.4	18.0	13.2	31.1	51.5	32.3	22.2	0.6	4.2	
訪問看護ST(n=30)	26.7	23.3	40.0	23.3	46.7	13.3	20.0	16.7	33.3	36.7	30.0	3.3	3.3	

資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（令和元年実施）

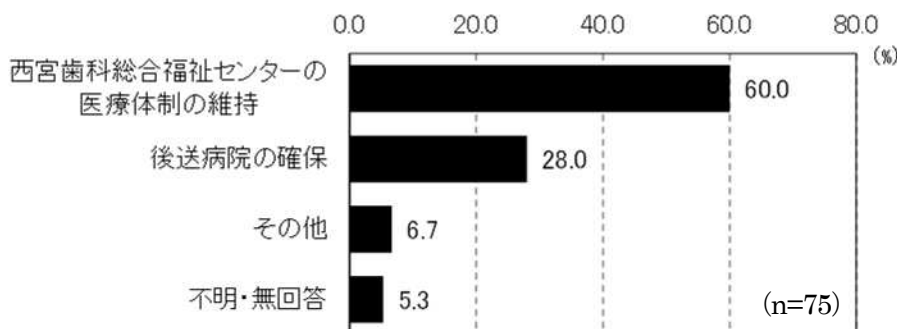
【歯科医療】

- 休日夜間の救急歯科医療体制への不安について「不安を感じる」と回答した歯科診療所は前回の58.2%から47.8%と10ポイント以上低下しています。また「不安を感じる」と回答した歯科診療のうち、60%の歯科診療所が「西宮歯科総合福祉センターの医療体制の維持」を不安内容として選択しています。

＜休日夜間の救急歯科医療体制への不安の有無（歯科診療所）＞



＜休日夜間の救急歯科医療体制への不安内容＞



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

〈今後の方向性〉

【周産期医療】

- ・維持・継続 妊娠期から切れ目ない支援を維持するため、医療機関等と連携して支援していきます。

【精神科医療】

- ・維持・継続 西宮市精神障害者地域移行推進事業を今後も継続実施していきます。
- ・維持・継続 措置入院者等の医療継続が困難なケースに対応する専従職員を配置し継続実施していきます。

【歯科医療】

- ・維持・継続 現状の体制維持に努めます。

基本目標 2 住み慣れた地域で適切な医療が受けられるまち

施策③ 北部地域の医療課題の解決

(計画 71 頁～72 頁記載)

〈推進方針〉

- ・近隣市との情報交換や協議による、救急医療機関に関する情報提供をはじめとした医療連携体制の充実 (72 頁)
- ・北部地域に隣接する他市の医療機関においても市の実施するがん検診等を受けられるようにするための関係機関との調整 (72 頁)

〈実施状況〉

- ・**実施継続中** 北部地域から比較的アクセスしやすい伊丹市にある阪神北広域こども急病センターと連携し、深夜帯の小児救急医療体制を拡充しています (再掲)。
- ・**拡大実施** 「h-anshin むこねっと」の2次救急システムについて平成 31 年 4 月より神戸圏域 (神戸市・三田市) のシステムと統合し、一体的に運営を始めたことで、北部地域の市民にとってより利便性のよい救急医療機関への搬送が可能となりました。
- ・**実施継続中** 阪神地域救急医療連携会議などにおいて、近隣市や関係機関と情報交換を行っています。
- ・**実施継続中** 平成 28 年度より、北部地区で受診機関の無かった子宮頸がん検診を宝塚市、神戸市の一部医療機関、乳がん検診を神戸市の一部医療機関で実施しています。

〈参考 宝塚市・神戸市医療機関におけるがん検診の受診者実績数〉

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 ※9月末現在
子宮頸がん検診	152 人	152 人	44 人
乳がん検診	103 人	86 人	13 人

〈実施における主な課題〉

- ・近隣市をはじめ、関係機関と協議が必要であること。

〈現状〉

- 市民向けアンケート調査結果によると、今後、特に充実して欲しい医療提供体制として、北部地域では「救急医療の充実」が 54.3% で最も多く、「身近な開業医と病院の連携の充実」(51.4%) などが続きます。
- 前回調査では、北部地域では、北部地域以外と比べて「救急医療の充実」と「診療科目の増加などの医療機関の充実」が多くなっていましたが、全ての項目で大きな差は生じていません。また、北部地域では、「救急医療の充実」と「診療科目の増加などの医療機関の充実」ともに、前回調査と比べて 10 ポイント程度減少しています。

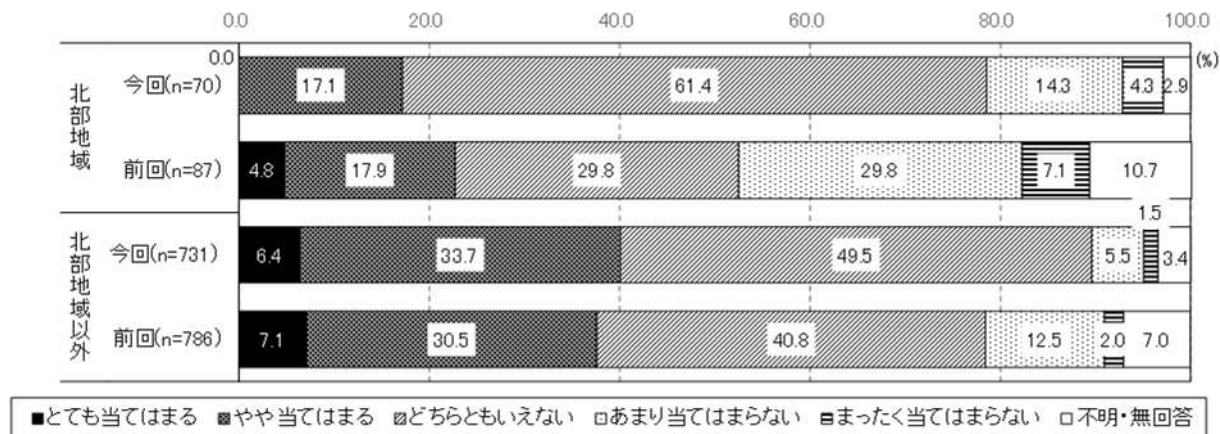
〈今後、特に充実して欲しい医療提供体制 (複数回答可) 〉

		救急医療の充実	高度専門医療の充実	身近な開業医と病院の連携の充実	診療科目の増加などの医療機関の充実	在宅医療の充実	医療情報の提供の充実	精神医療 (認知症・うつ病等) の充実	感染症対策の充実	その他	不明・無回答
北部地域	今回(n=70)	54.3	38.6	51.4	22.9	25.7	14.3	11.4	8.6	8.6	5.7
	前回(n=84)	64.3	39.3	51.2	32.1	26.2	15.5	13.1	-	10.7	0.0
北部地域以外	今回(n=731)	58.3	37.8	52.7	26.4	26.4	24.9	12.4	7.3	2.9	2.3
	前回(n=786)	56.5	44.0	50.9	22.1	27.5	23.8	19.0	-	2.8	1.3

資料：西宮市 保健医療に関する意識調査 (平成 27 年、令和元年実施)

- 市民向けアンケートと医療機関向けアンケートの調査結果から、本市の救急医療に対する評価をみると、北部地域では充実しているとの回答割合は17.1%で、北部地域外（40.1%）の半分以下となっており、北部地域とそれ以外の地域で救急医療に対する意識の差がみられます。
- 北部地域では、救急医療が充実しているとの回答割合は、前回調査（22.7%）から6ポイント程度減少していますが、充実していないとの回答割合は18.6%で、前回調査（36.9%）の半分程度まで減少しています。

＜西宮市は救急医療が充実しているかについて＞



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

＜今後の方向性＞

- ・維持・継続医療連携体制の充実に向け、近隣市や関係機関と協議を行います。
- ・維持・継続他市での一部がん検診の実施を継続していきます。

基本目標3 健康でいきいきできるまち

施策① 疾病予防対策の充実

(計画74頁～78頁記載)

〈推進方針〉

【健康づくり】(77頁)

- ・市民のライフステージに応じた主体的な健康づくりへの支援、健康づくりに取り組みやすい地域づくり
- ・健康寿命の延伸に向けたロコモティブシンドローム予防、口腔機能の向上及び栄養改善を目的とする健康講座の実施
- ・身近な地域で介護予防に取り組めるよう、「西宮いきいき体操」の普及啓発の実施

【生活習慣病予防】(77頁)

- ・疾病の早期発見を目的とした、特定健診、がん検診、歯周疾患検診などの受診率向上のための取り組みの実施、受診機会の拡大
- ・生活習慣病の発症及び重症化予防を目的とした知識の普及啓発や保健指導の実施

〈施策実施状況(計画策定時からの比較)〉

【健康づくり】

- ・**実施継続中**市民が主体的に健康づくりに取り組むためのきっかけづくりとして、市民健康フォーラム、健康フェア、食育フェスタ等を開催しています。
- ・「にしのみや食育・健康づくり応援団」の認定制度により、完全禁煙の飲食店や栄養成分表示の店などを市民に情報提供することで、市民が健康づくりに取り組みやすい環境整備を実施しています。
- ・**実施継続中**老人クラブ、自治会、社会福祉協議会、民生委員等と連携しながら「西宮いきいき体操」の普及啓発を進めていくほか、実施グループに対して体操指導、口腔体操の指導、栄養や認知症等に関する講義を実施しています。
- ・**実施継続中**健康について気軽に学習できる機会として出前健康講座を実施しています。

【生活習慣病予防】

- ・**実施継続中**北口保健福祉センター検診施設での受診機会の拡大のため、隔月に1回の休日健診のほか、平成30年度から毎週金曜日にも健診を行い、平日全ての健診受診が可能となりました。さらに、同年9月から同施設でインターネット予約サービスを開始するなど受診環境の整備に取り組んでいます。また、平成26年度より、地区巡回健診についても休日健診を実施しています
- ・**実施継続中**特定健診受診対象者のうち、未受診者には受診勧奨を受診者のうち特定保健指導対象者には生活習慣改善のため個別に保健指導を実施しているほか、特定保健指導対象者以外で改善の必要な人へも業者委託により保健指導を実施しています。
- ・**実施継続中**各種がん検診無料クーポン券事業および一部対象者に対する個別受診勧奨通知を費用対効果の視点を取り入れながら、継続して実施しています

〈実施における主な課題〉

【健康づくり】

- ・地区ごとの健康課題は異なり、それらを踏まえた取り組みが必要
- ・「にしのみや食育・健康づくり応援団」の認定制度の市民への更なる周知と事業者に対する加入促進が必要
- ・「西宮いきいき体操」の実施グループ数の地域差の解消
- ・口腔機能、栄養、認知症予防の重要性のさらなる周知
- ・青壮年期に対する健康づくりの効果的なアプローチについて検討が必要

【生活習慣病予防】

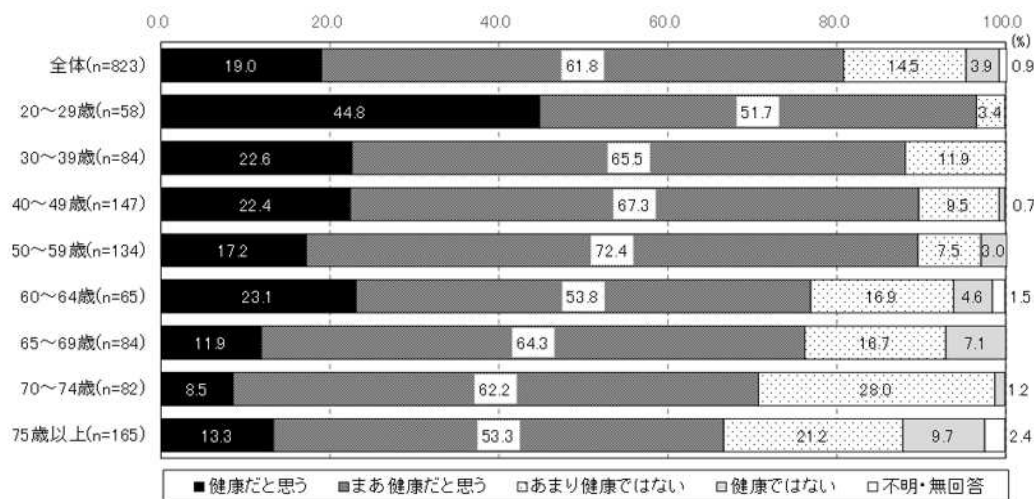
- ・働き盛り世代に対してのさらなる啓発
- ・特定保健指導の対象者が利用しやすい環境づくり

〈現状〉

【健康づくり】

- 市民向けアンケート調査結果によると、主観的な健康感について、自身が健康であるとの回答は全体では80.8%となっています。また、自身が健康であるとの回答割合を年齢層別でみると、20歳代で96.5%、30～50歳代では9割前後、60歳代で8割程度、70歳以上で7割程度となっています。特に、50歳代から60歳代にかけて、自身が健康であるとの回答割合が大きく減少しています。

〈主観的な健康感（全体・年齢層別）〉



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

【生活習慣病予防】

- 市民向けアンケート調査結果によると、現在治療中、服薬中の病気については、「特にない」が38.5%で最も多く、「高血圧」(23.6%)、「目の病気」(13.0%)、「歯の病気(むし歯・歯周病)」(12.2%)などが続きます。

	高血圧	(脳卒中・脳梗塞等)	心臓病	糖尿病	(高脂血症・脂質異常)	(がん(悪性新生物))	(呼吸器の病気(肺炎や支気管炎等))	胆胃の腸の病気(肝臓・膵臓)	腎臓・前立腺の病気	(筋骨格の病気(関節症等))
全体(n=823)	23.6	2.1	7.8	8.3	10.4	1.6	4.0	4.5	4.9	7.4
20～29歳(n=58)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0
30～39歳(n=84)	2.4	0.0	0.0	1.2	2.4	0.0	3.6	1.2	0.0	1.2
40～49歳(n=147)	2.0	0.0	1.4	1.4	4.1	1.4	2.7	2.0	0.0	2.7
50～59歳(n=134)	14.2	0.0	2.2	5.2	7.5	0.0	1.5	3.0	0.7	3.7
60～64歳(n=65)	26.2	0.0	6.2	10.8	15.4	3.1	1.5	3.1	3.1	10.0
65～69歳(n=84)	33.3	6.0	10.7	10.7	16.7	2.4	0.0	6.0	6.0	10.7
70～74歳(n=82)	46.3	2.4	13.4	18.3	22.0	6.1	7.3	8.5	4.9	14.6
75歳以上(n=165)	51.5	6.1	20.0	15.8	15.8	1.2	9.1	8.5	16.4	17.0

	(外傷(骨折等)・捻挫)	病血気液・免疫の病気	(うつ病等の精神の病気)	マ(アルツハイ)ー病等	目の病気	耳の病気	(歯の病気(むし歯・歯周病))	特にない	その他
全体(n=823)	0.2	1.7	3.3	0.4	13.0	1.9	12.2	38.5	7.0
20～29歳(n=58)	0.0	0.0	3.4	0.0	1.7	1.7	3.4	75.9	8.6
30～39歳(n=84)	1.2	2.4	6.0	0.0	0.0	0.0	4.8	65.5	15.5
40～49歳(n=147)	0.0	2.0	4.1	0.0	2.7	0.0	6.1	61.9	8.2
50～59歳(n=134)	0.0	1.5	4.5	0.0	9.7	3.0	8.2	47.0	6.7
60～64歳(n=65)	0.0	0.0	3.1	0.0	16.9	0.0	10.8	33.8	6.2
65～69歳(n=84)	1.2	2.4	1.2	0.0	15.5	2.4	11.9	25.0	1.2
70～74歳(n=82)	0.0	2.4	2.4	0.0	15.9	1.2	24.4	8.5	8.5
75歳以上(n=165)	0.0	1.8	1.8	1.8	30.9	4.8	22.4	7.9	4.2

資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

〈今後の方向性〉

【健康づくり】

- ・**拡充**「にしのみや食育・健康づくり応援団」の認定制度の事業者登録件数が増えるよう、飲食店等に周知し加入促進していきます。
- ・**維持・継続**健康寿命の延伸に向け、健康講座の実施や健康情報の提供を引き続き行っていくとともに、これまで利用の無いグループや団体・壮年期の方へのアプローチを強化し参加を促進していきます。
- ・**維持・継続**身近な地域で介護予防に取り組めるよう、引き続き「西宮いきいき体操」の普及啓発を継続するとともに、実施グループに対して口腔機能、栄養、認知症予防の重要性についてもさらに周知していきます。

【生活習慣病予防】

- ・**維持・継続**休日健診の拡大については、今後も関係機関との調整を今後も引き続き実施していきます。
- ・**維持・継続**特定保健指導対象者への保健指導を今後も継続するほか、特定保健指導対象者以外で改善が必要な人への業務委託による保健指導も継続していきます。
- ・**維持・継続**各種がん検診無料クーポン券事業および個別受診勧奨通知については、効果検証を行いながら、引き続き実施していきます。

基本目標3 健康でいきいきできるまち

施策② 保健・医療に関する情報の発信と普及啓発の強化

(計画 79 頁～81 頁記載)

〈推進方針〉

【医療に関する情報提供の充実】(81 頁)

- ・年齢や居宅歴等に応じた幅広い媒体による救急医療をはじめとした医療情報の提供

【健康管理意識の促進】(81 頁)

- ・医療や疾病予防・健康増進を重視した情報発信や普及啓発の実施による健康診断の受診率や市民の各種疾病に関する知識の向上

〈施策実施状況(計画策定時からの比較)〉

【医療に関する情報提供の充実】

- ・**実施継続中**各種媒体を通じた救急医療情報の提供を行っています(再掲)。
- ・**実施継続中**健康や医療等について24時間相談対応を行う健康医療相談「ハローにしのみや」の周知を行っています(再掲)。

【健康管理意識の促進】

- ・**実施継続中**国保加入者の特定健診受診率の向上のため、受診歴に応じた個別受診勧奨を実施しています。
- ・**実施継続中**特定健診受診者に年度毎に病態別のリーフレットを作成して配布しています。
- ・**実施継続中**各種がん検診無料クーポン券事業および一部対象者に対する個別受診勧奨通知を費用対効果の視点を取り入れながら、継続して実施しています(再掲)

〈実施における主な課題〉

【医療に関する情報提供の充実】

- ・継続した周知が必要であること

【健康管理意識の促進】

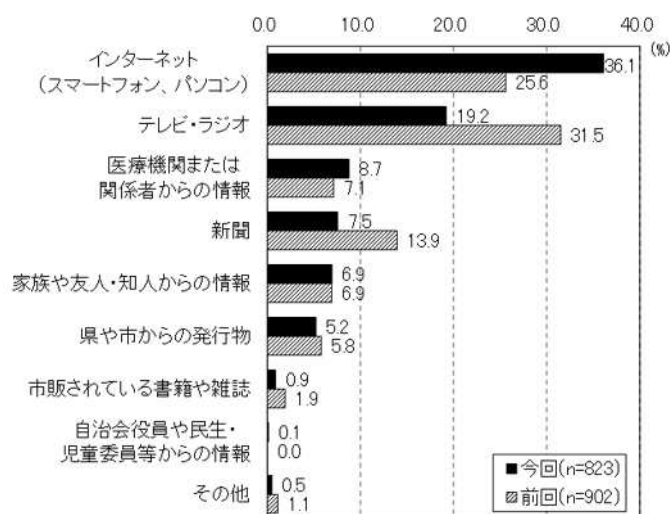
- ・特定健診の受診率のさらなる向上

〈現状〉

【医療に関する情報提供の充実】

- 市民向けアンケート調査結果によると、病気や医療に関する情報の主な入手手段としては、「インターネット(スマートフォン、パソコン)」が36.1%で最も多く、「テレビ・ラジオ」(19.2%)、「医療機関または関係者からの情報」(8.7%)が続きます。また、「インターネット(スマートフォン、パソコン)」(36.1%)は前回調査(25.6%)から10ポイント程度増加しており、一方で、「テレビ・ラジオ」(19.2%)は前回調査(31.5%)から10ポイント以上、「新聞」(7.5%)は前回調査(13.9%)の半分程度に減少しています。

〈病気や医療に関する情報の主な入手手段〉



- 病気や医療に関する情報の主な入手手段を年齢層別で見ると、20～60 歳代では「インターネット（スマートフォン、パソコン）」、70 歳以上では「テレビ・ラジオ」が最も多くなっています。

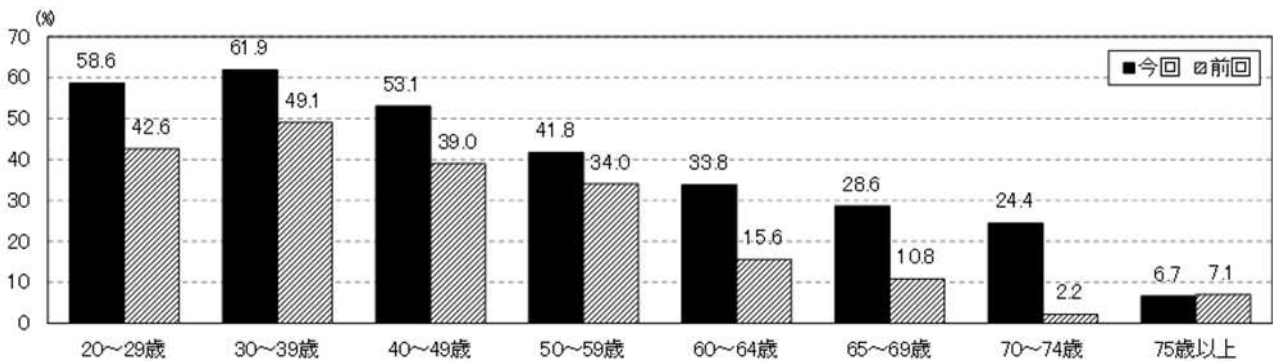
＜病気や医療に関する情報の主な入手手段（年齢層別）（％）＞

	新聞	テレビ・ラジオ	インターネット・パソコン・スマートフォン	物 県や市からの発行	籍 市販されている雑誌	係 医療機関または関係者からの情報	ら 自治会役員や民生の児童委員等からの情報	か 家族や友人・知人からの情報	その他	特に病気や医療に関する情報は入手していない
20～29歳(n=58)	3.4	19.0	58.6	0.0	0.0	6.9	0.0	3.4	0.0	5.2
30～39歳(n=84)	1.2	9.5	61.9	3.6	0.0	8.3	1.2	1.2	1.2	4.8
40～49歳(n=147)	4.1	8.8	53.1	7.5	0.0	3.4	0.0	5.4	0.7	8.2
50～59歳(n=134)	6.7	16.4	41.8	3.7	3.0	8.2	0.0	4.5	1.5	4.5
60～64歳(n=65)	4.6	27.7	33.8	4.6	3.1	7.7	0.0	4.6	0.0	9.2
65～69歳(n=84)	8.3	19.0	28.6	3.6	0.0	14.3	0.0	11.9	0.0	4.8
70～74歳(n=82)	9.8	25.6	24.4	2.4	0.0	11.0	0.0	9.8	0.0	9.8
75歳以上(n=165)	15.2	29.7	6.7	9.1	0.6	11.5	0.0	11.5	0.0	6.7

資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成 27 年、令和元年実施）

- 病気や医療に関する情報の主な入手手段としてのインターネットの回答割合について、年齢層別で前回調査と比べると、ほとんどの年齢層で増加していますが、特に、60～64 歳では 2 倍程度、65～69 歳では 3 倍程度、70～74 歳では 11 倍と大きく増加しています。

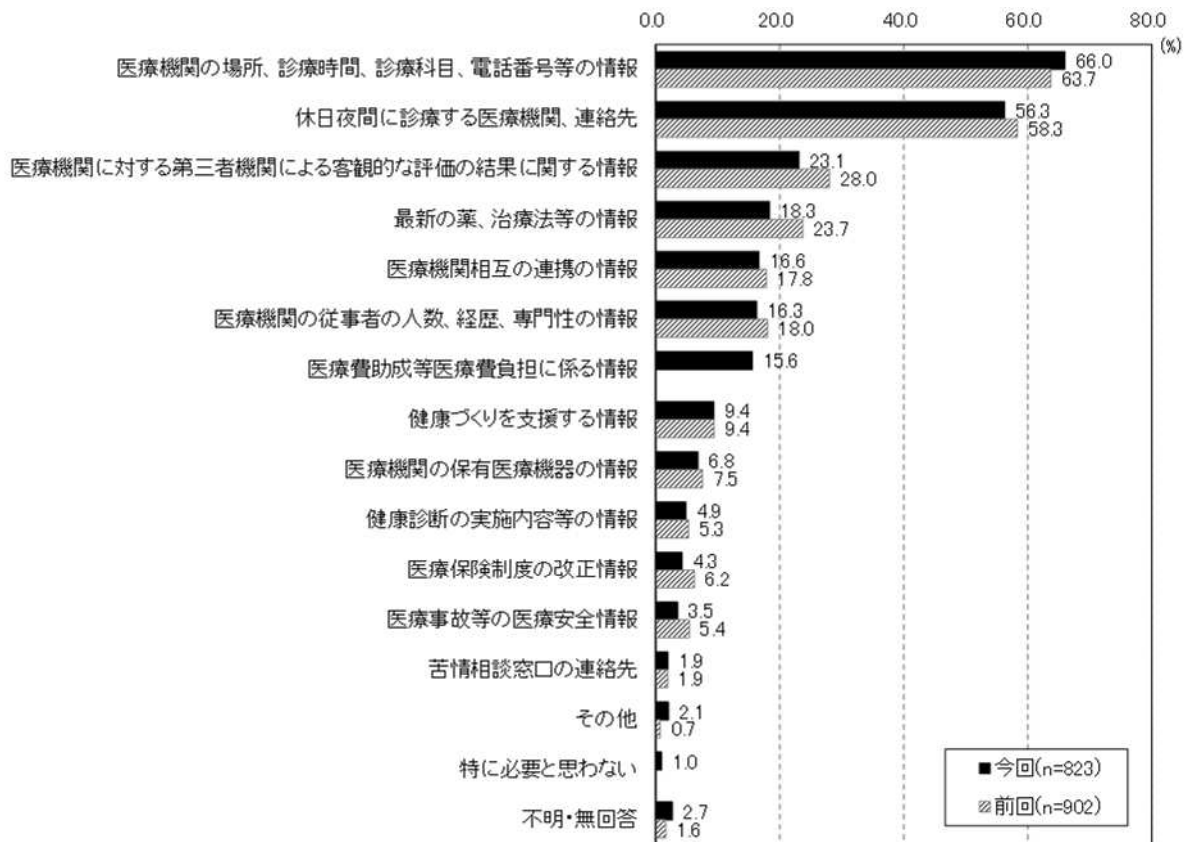
＜病気や医療等の情報の主な入手手段としてのインターネットの回答割合（年齢層別）＞



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成 27 年、令和元年実施）

- 市民向けアンケート調査結果によると、病気や医療に関して必要と思う情報としては、依然として「医療機関の場所、診療時間、診療科目、電話番号等の情報」が66.0%で最も多く、「休日夜間に診療する医療機関、連絡先」(56.3%)、「医療機関に対する第三者機関による客観的な評価の結果に関する情報」(23.1%)などが続いています。

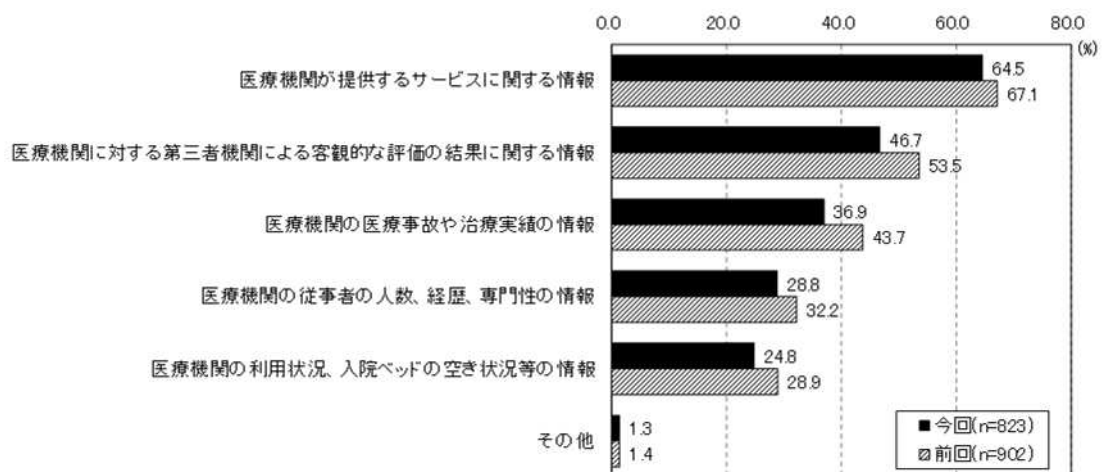
＜病気や医療に関して必要と思う情報＞



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

- 市民向けアンケート調査結果によると、医療に関するサービスを選択時に必要な情報としては、依然として「医療機関が提供するサービスに関する情報」が64.5%で最も多く、「医療機関に対する第三者機関による客観的な評価の結果に関する情報」(46.7%)などが続いています。

＜医療に関するサービスを選択時に必要な情報（前回比較）＞



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（平成27年、令和元年実施）

〈今後の方向性〉

【医療に関する情報提供の充実】

- ・**維持・継続** 今後も各種媒体を利用し、継続的に情報提供、周知を実施します。

【健康管理意識の促進】

- ・**維持・継続** 特定健診の受診率の向上のため今後も取組を継続して実施します。
- ・**維持・継続** 今後も、健康管理に係る知識の普及啓発を継続して実施します。
- ・**維持・継続** 各種がん検診無料クーポン券事業および個別受診勧奨通知については、効果検証を行いながら、引き続き実施していきます。(再掲)

市立中央病院の役割

施策① 市立中央病院の役割

(計画 84 頁～88 頁記載)

〈推進方針〉

【救急医療】(87 頁)

- ・ 現施設での対応可能な現在の小児 2 次救急輪番制当番日 (週 2 日) の維持
- ・ 2 次救急を担う病院として、対応能力の向上に向けた体制の整備

【地域完結型医療】(87 頁～88 頁)

- ・ 地域の診療所を始めとする他の医療機関等との連携の強化による患者に対する切れ目のない医療サービスの提供
- ・ 患者やその家族などに対する市立中央病院と地域の診療所などとの連携や役割分担の周知及びかかりつけ医の普及に向けた啓発の実施
- ・ 現在の病床機能を分化し、重症患者や急性期を脱した患者を受け入れる病床の整備
- ・ 周産期医療や歯科診療 (後方支援病院機能) の充実にに向けた検討

【災害時の医療】(88 頁)

- ・ 建物の耐震化と施設・設備の老朽化対策
- ・ 災害時を想定した院内の診療体制及び他の医療機関・団体との連携の強化

【将来の医療需要への対応】(88 頁)

- ・ 多職種連携によるチーム医療を推進し、増加するがん患者などに対応
- ・ 更新時期を迎えた医療機器等を整備し、より高度な医療サービスを提供

【将来のあり方】(88 頁)

- ・ 市内の医療環境の向上を図るために、引き続き、市立中央病院と県立西宮病院との統合を目指した取組を進めます。

〈施策実施状況 (計画策定時からの比較)〉

【救急医療】

- ・ **実施継続中** 小児 2 次救急の輪番病院として週 2 日対応を維持しています。

<参考 小児 2 次救急輪番事業の実績>

平成 28 年度	576 人(うち 救急車搬送件数 220 人)
平成 29 年度	533 人(うち 救急車搬送件数 221 人)
平成 30 年度	570 人(うち 救急車搬送件数 303 人)
平成 31 (令和元) 年度 ※9 月末現在	452 人(うち 救急車搬送件数 183 人)

- ・ **新規実施** 循環器系疾患への対応については、平成 28 年度から専用のデジタル X 線血管撮影装置を用いた治療を開始するとともに、診療所の医師から直接中央病院の循環器内科医への電話連絡が可能なハートコールを平成 29 年 2 月から設置しています。また、平成 29 年度から心臓血管センターを設置し、他職種のスタッフが連携して診療に取り組んでいます。

<参考 循環器系疾患患者のうち救急車で搬送された患者数>

平成 29 年度	27 人
平成 30 年度	39 人
平成 31 (令和元) 年度※9 月末現在	9 人

【地域完結型医療】

- ・ **新規実施** 県市で、統合再編基本計画案を策定し、新病院に小児科、産婦人科、歯科口腔外科を設置予定としました。
- ・ **新規実施** 紹介率及び逆紹介率の向上や連携医 (中央病院と連携する診療所) の増加に向けた取組を継続するなど地域の医療機関等との連携を強化するとともに、診療所との役割分担を図るため、平成 29 年 7 月に初診時選定療養費を改定しました (1,080 円→2,600 円)。

<参考 連携医数及び紹介率・逆紹介率>

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 (令和元) 年度 ※9 月末現在
連携医数	91 件	147 件	186 件	210 件
紹介率	57.8%	61.2%	66.1%	71.8%
逆紹介率	65.0%	71.7%	81.4%	82.1%

【災害時の医療】

- ・**新規実施**安定した電力の供給を図るための受変電設備の改修、建物の耐震改修工事等の大規模改修工事を平成 30 年度までで完了しました。
- ・**実施継続中**災害時の対応について、市の総合防災訓練に参加するとともに、病院独自でも地震の発生による多数の負傷者の受け入れを想定し、トリアージ→搬送→治療という一連の流れを確認する訓練を実施するなど、**毎年度、災害対策訓練を実施**しています。

【将来の医療需要への対応】

- ・**新規実施**がんの手術を含む周術期の患者に対し、より効率的かつ効果的な管理・ケアを実施するため、平成 29 年度に周術期サポートセンター（PERIO 西宮）を設置し、多職種から成るチームで周術期の管理を行っています。

<参考 周術期サポートセンター利用者数>

	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 (令和元) 年度 ※9 月末現在
利用者数	2,078 人	2,510 人	1,164 人

- ・**新規実施**平成 29 年度より手術支援ロボット（ダヴィンチ）を導入し、手術を施行しています。

<参考 ダヴィンチを用いた手術実績>

	平成 29 年度 (H30. 2~3 月)	平成 30 年度	平成 31 (令和元) 年度 ※9 月末現在
手術件数	6 件	39 件	19 件

- ・**新規実施**平成 28 年度に心臓血管専用の血管撮影装置を導入し、他院へ紹介していた心疾患を有する患者への検査・手術の対応が可能となりました。

【将来のあり方についての検討】

- ・**新規実施**市内の医療環境の向上を図るために両病院の統合再編について県市で協議を重ね、平成 31 年 1 月に基本協定を締結し、さらに基本計画案を策定しました。

<実施における主な課題>

【救急医療】

- ・小児救急に関し、さらなる体制の強化を図るためには、**小児科医の確保**が必要であること。
- ・緊急度の高い循環器系疾患の救急患者に対応するためには、さらなる**医療スタッフの確保及び養成**が必要であること。
- ・**ハートコール**について、**近隣の診療所等への広報**の充実が求められること。

〈現状〉

【救急医療】【地域完結型医療】【災害時の医療】

- 市民向けアンケートと医療機関向けアンケートの調査結果によると、県立西宮病院との統合までの間の市立中央病院の役割として、特に重要と考えることについては、市民と全ての医療機関で「夜間・休日の救急医療の充実」が最も多くなっており、「病院・診療所等との連携強化（地域完結型医療）」や「医療ニーズの高度化・多様化への対応」などが続いています。
- 市民では、「病院・診療所等との連携強化（地域完結型医療）」（48.2%）が前回調査（40.1%）から10ポイント程度増加しています。

〈統合までの間の市立中央病院の役割として、特に重要と考えること（市民、医療機関）（%）〉

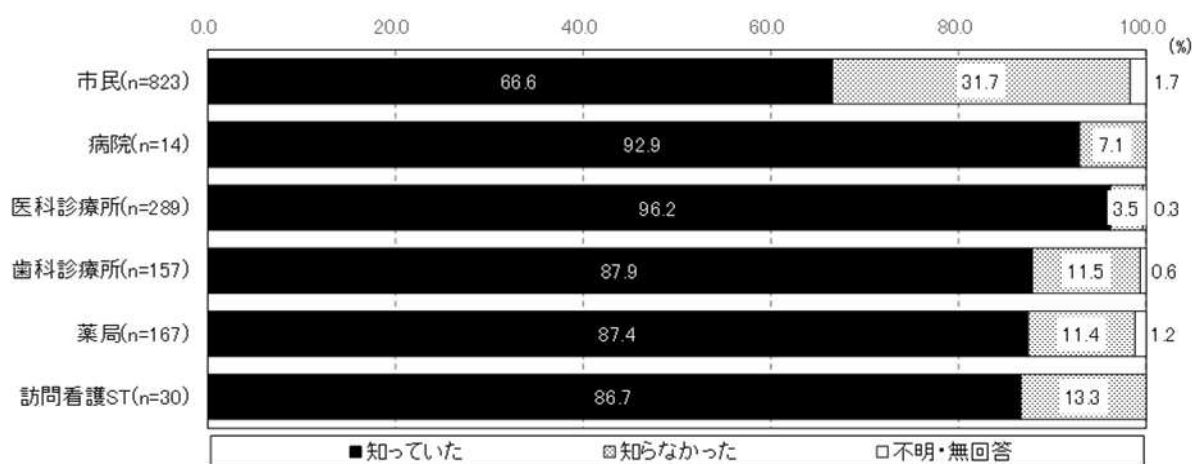
	市民		病院 今回(n=14)	医科診療所 今回(n=289)	歯科診療所 今回(n=157)	薬局 今回(n=167)	訪看ST 今回(n=30)
	今回(n=823)	前回(n=902)					
医療ニーズの高度化・多様化への対応	48.2	59.1	50.0	42.6	38.9	41.9	53.3
新型インフルエンザ等の感染症対策の充実	10.6	10.1	0.0	5.2	8.9	7.8	6.7
夜間・休日の救急医療の充実	58.2	71.1	50.0	61.9	56.7	57.5	70.0
病院・診療所等との連携強化(地域完結型医療)	49.7	40.1	7.1	42.9	43.3	49.7	70.0
災害時の拠点病院としての機能の充実	34.4	31.5	0.0	26.0	36.9	41.9	33.3
出産等周産期医療への対応	5.3	9.1	21.4	11.4	10.2	15.6	6.7
小児医療の充実	11.7	14.5	28.6	24.2	13.4	13.8	10.0
その他	5.1	4.7	14.3	4.2	1.3	1.2	6.7
不明・無回答	4.3	2.7	7.1	2.1	4.5	4.2	3.3

資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（令和元年実施）

【将来のあり方】

- 市民向けアンケートと医療機関向けアンケートの調査結果によると、市立中央病院と県立西宮病院が統合することに関する認知度は市民で66.6%、病院と医科診療所では9割台、歯科診療所や薬局、訪問看護ステーションでは8割台となっています。

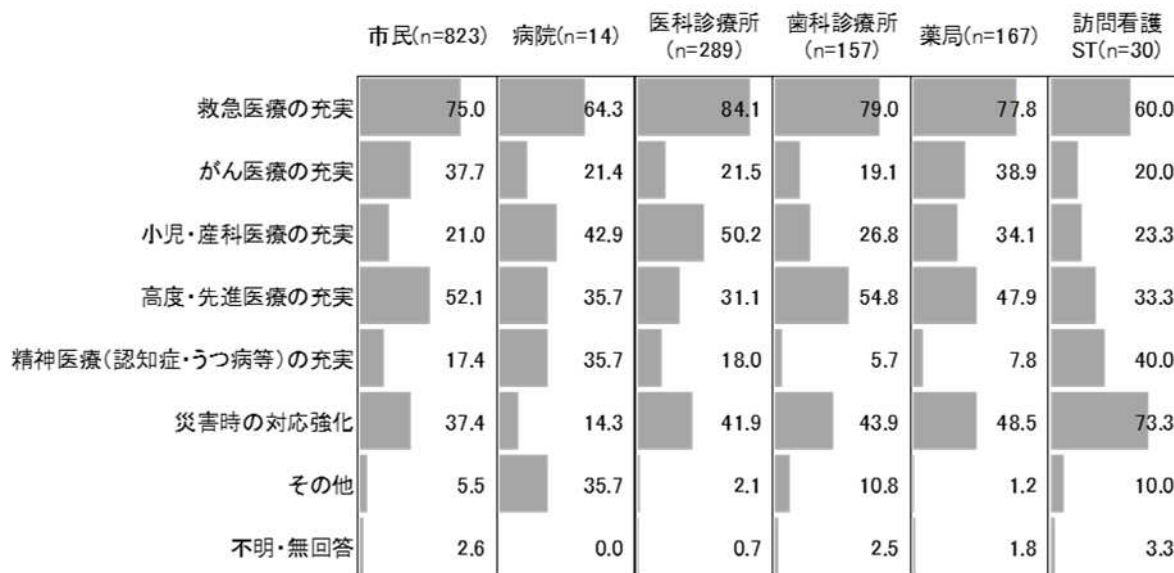
〈市立中央病院と県立西宮病院の統合に関する認知状況（市民、医療機関）〉



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（令和元年実施）

- 市民向けアンケートと医療機関向けアンケートの調査結果によると、統合新病院に期待することとしては、市民や病院、医科診療所、歯科診療所、薬局では「救急医療の充実」が、訪問看護ステーションでは「災害時の対応強化」が最も多くなっています。

＜統合新病院に期待すること（市民、医療機関）（％）＞



資料：西宮市 保健医療に関する意識調査（令和元年実施）

＜今後の方向性＞

【救急医療】

- ・**維持・継続**現施設において2次救急輪番体制（小児救急含む）の維持に寄与するとともに、市内の救急体制の強化を図るため、県立西宮病院との早期の統合に向け、兵庫県との協議を継続します。

【地域完結型医療】

- ・**維持・継続**県の地域医療構想を踏まえ、引き続き、**地域の医療機関等との連携を強化**し、地域完結型医療の構築を目指した取組を実施します。

【災害時の医療】

- ・**維持・継続**災害時に備え、引き続き、災害対策訓練での課題を検証し、**院内での診療体制の強化**に取り組むとともに、**他の医療機関、各種団体との連携の強化**に努めます。
- ・**維持・継続**災害対策訓練において明らかになった課題の抽出と課題解決に向けた取組を実施するとともに、次回以降の災害対策訓練で検証を行います。

【将来のあり方】

- ・**維持・継続**今後、統合新病院の早期開院に向けて、設計等を県市で実施する予定です。